



ファーストラン!

# FIRST RUN!

おお なかま いま か みらい そうぞう  
-多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために-

NO.100  
2017.1



アートサークル「ミントアンサンブル」の皆さん<sup>みな</sup>

とくしゅう

## 特集

ファーストラン 100 号<sup>ごうきねんきかく</sup>記念企画

すいしんきょうざだんかい

# 推進協座談会

ついでとう うえだまい  
追悼 上田舞さんへ

すいしんきょう かいじん だいぼしゅう  
推進協「会員」を大募集!!

編集：特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

<http://www.suisinkyo.com/>



## ■ こんてんつ CONTENTS ■

# 3 ファーストラン 100 号記念企画 すいしんきょうざ だん かい だいいちぶ 推進協 座談会 第一部

35 カエルのうた

36 ついとう うえだまい  
追悼 上田舞さんへ

37 へんしゅうこうき  
編集後記

38 すいしんきょう かいいん だいほしゅう  
推進協「会員」を大募集！！

## つきいつかい 「月 1 回のアトリエ」

ミントアンサンブル<sup>かいが</sup>絵画サークルができて 6 年<sup>ねん</sup>になります。絵を描くのが大好きなメンバーが、月 1 回第 4 土曜日<sup>つきいつかいだい どようび</sup>にささゆり園をアトリエにして活動しています。

もっと描きたいのに場所<sup>ばしょ</sup>がない。そんな声<sup>こえ</sup>を受けて始<sup>はじ</sup>まったサークル。ライフタイムミントがささゆり園<sup>えん</sup>を借り、大人<sup>おとな</sup>と子どもの時間帯<sup>じかんたい</sup>を分けて活動する今の形<sup>かたち</sup>に落ち着きました。現在約 25 名<sup>げんざいやく めい ひと</sup>の人たちが参加しています。

マイペースで自由に制作する人たちの部屋はまさにアトリエで、静かな緊張<sup>しず せんちょう</sup>とでもいう時間が流れています。一人一人の<sup>ひとりひとり</sup>集中<sup>しゅうちゅうりょく</sup>力がものすごく、コンクール<sup>こんこう</sup>に入賞する作品もたくさんできています。

他方<sup>たほう</sup>、季節<sup>きせつ</sup>に合わせて工作<sup>こうさく</sup>や描画<sup>びやうが</sup>をするグループは、にぎやかで楽しい雰囲気<sup>たの ふんいき</sup>です。

年 1 回メイプルホールロビーを借りて作品展<sup>さくひん</sup>をします。全員が出品<sup>しゅつぴん</sup>しますので、是非<sup>ぜひ</sup>すばらしい作品<sup>さくひん</sup>を見に来てください。

(二口 圭子<sup>ふたくち けいこ</sup>：アートサークル「ミントアンサンブル」講師<sup>こうし</sup>)



# ファーストラン100号記念企画 すいしんきょうざだんかい 推進協座談会

まちが きおく おーけー  
ちょっと間違った記憶でも OK で



## だいいちぶ 第一部 国際障害者年と推進協設立

### ●はじめに

「みな、きちんと語ろうとするときは聞く者がいないし、真剣に聞きたいときは語る者がいないのだ」と、『先生のあさがお』（南木佳士著）という小説の言葉にありました。今回、当法人の機関紙がめでたく 100 号となり、「何か面白い企画はないか？」と考えた際に浮かんだ企画の意図をそのまま代弁してくれる言葉だなと思いました。私は常々、「どのような経緯やどのような思いで当法人が作られ今に至るのか、きちんとその話を聞く場がないものか」と思っていました。単純に知りたいという思いと、当法人の未来を考えた時に皆でルーツを共有しておかないと「いつか、僕らは先に進めなくなる時が来るのでは？」という漠然とした不安からでした。そして、聞いた事を「何か形として残しておきたい」と。そんな思いから、今回のファーストラン！では当法人の団体設立に至るまでの時代や、制度がない中で関わってきた方たちに集まっていただき、語ってくれたことを記事にしました。なお、座談会は第一部と第二部に分かれ、今号では第一部、次号では第二部を掲載いたします。日本の箕面という小さな町で、障害のある人を中心にして活動してきたこのような小さな歴史があったことを知っていただき、少しでも何かを感じていただけたら幸いです。

### ●「国際障害者年」とは

座談会本文の中に「国際障害者年」という言葉が何度も登場します。座談会をより楽しんでいただくため、ふれておきます。「国際障害者年」とは障害者の社会生活の保障・参加のための国際的努力の推進を目的として 1976 年の第 31 回国連総会で決定したもので、1981 年が「国際障害者年」にあたります。そのテーマは「完全参加と平等」で、主に下記の内容でした。

- ① 障害者の身体的、精神的な社会適合の援助
- ② 就労の機会保障
- ③ 日常生活への参加の促進
- ④ 社会参加権の周知徹底のための社会教育と情報の提供
- ⑤ 国際障害者年の目的の実施のための措置と方法の確立

さらに 1982 年には、「国際障害者年」の成果をもとに検討されてきた「障害者に関する世界行動計画」が総会で決議。この計画の実施にあたり 1983 年～92 年までを「国連・障害者の十年」と宣言し、各国が計画的な課題解決に取り組むことになったのでした。

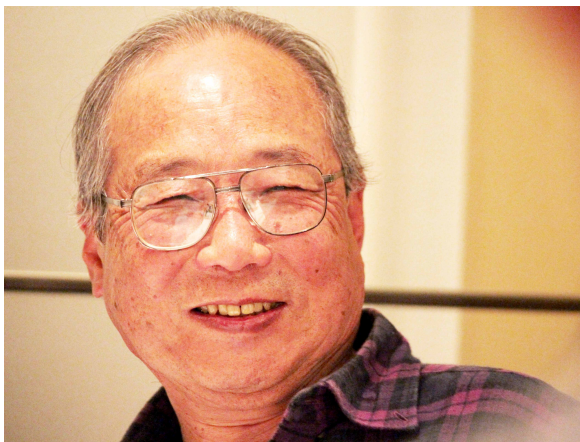


ざだんかいだいいちぶ さんか  
●座談会第一部 参加メンバープロフィール



むとう よしかず  
【武藤 芳和】

おおさかしゅっしん さい 100 歳まで生きる気満々の 59 歳。おとめ座の  
えーがた ねん とよのしょうがいしゃろうどう し む きょくちょう  
A 型。1981 年に豊能障害者労働センターの事務局長、  
1990 年にパンハウスワークランドの事務局長を経て 1993  
ねん とうほうじん し む きょくちょう げんざい とうほうじん りじちょう  
年に当法人の事務局長となる。現在、当法人の理事長。  
す 好きなものは旅行、お酒、カラオケ。カラオケの十八番は  
とらぶりゅう ほんにんいわ のうしゅつけつ えいきょう なん  
虎舞竜の「ロード」！本人曰く、「脳出血の影響もあり何  
でもすぐに忘れるが、嫌なことはずっと憶えている」らし  
い(笑)。



はまべ いさお  
【濱辺 勲】

きょうとしゅっしん さい 73 歳。うお座の O 型。1962 年に電電公社 (現  
えん でん でん こうしや げん  
えん でん でん こうしや げん  
N T T) に入社。1970 年に箕面市新稲に転入。1982 年、  
こくさいしょうがいしゃねんみのおしみんかいぎ せわにんだいひょう  
国際障害者年箕面市民会議の世話人代表となる。(2008  
ねんたいにん いま たいしよく いんきよ み やま つ どくしよ あい  
年退任)今は退職して隠居の身。山と釣りと読書を愛する。  
いまいちばんきょうみ しほんしゅぎ しゅうえん  
今一番興味のあることは「資本主義の終焉・ポピリズム  
せいじ は  
政治の果てにあるもの」。



ながた ようこ  
【永田 よう子】

おおさかしゅっしん さい 67 歳。当法人には団体設立から関わり、設立  
ねん め せんじゅうしよくいん ととき かいごはけん  
2 年目に専従職員となる。その時は介護派遣やグループ  
せわにん たんとう げんざい みの おししょうがいしゃきょうどうじぎょうしよ  
ホーム世話人を担当。現在は箕面市障害者共働事業所た  
んぱぼの代表と当法人の監事と第三者委員を務めている。  
だいいょう とうほうじん かんじ だいいんしゃいん つと  
するどいつツッコミで周囲からも一目おかれる存在！？



たかおか きみこ  
【高岡 紀美子】

さい 67 歳。ふたご座の A 型。1993 年～1995 年に介護グループ  
さんか こくさいしょうがいしゃねんみのおしみんかいぎ  
「ガッテンだ！」に参加。国際障害者年箕面市民会議グルー  
プ「のび」にも参加し「市民による人権・平和の企画コン  
ぺ」に応募し、ガイドヘルプ活動への理解を広める。グルー  
プホーム設立と運営委員を経て、現在は当法人理事。草  
ばな わがし なかしま す  
花、和菓子、中島みゆき、マット・デイモンが好き。それ  
と『自由と平和のための京大有志の会の声明書』も。





## 【大道 広子】

豊中市出身の 43 歳。みずがめ座の O 型。17 歳の時、交通事故で右手・右足を切断。19 歳で箕面市障害者共働作業所そよ風の家のスタッフになる。(現、NPO 法人そよかぜ) 24 歳でシングルで愛娘を出産。色々な活動を経て、現在は箕面市人権啓発推進協議会や障害者市民問題啓発研究部会を中心に活動中。当法人の理事でもある。好きなものはブルーハーツ、生アワビ。あとは娘の影響で韓国ドラマや K-POP にはまる。嫌いなものは「酒とタバコの無い世界」。



## 【小野 啓輔】

大阪市出身の 56 歳。1982 年に箕面市役所に奉職。健康福祉部の副部長、部長を経て、現在は市民部部長。(政策企画や人権自治、職員課、経営改革、市民安全政策なども経験) 好きな物はパイナップル、上々颱風、宴会。嫌いな物はヘイトスピーチ。今一番の興味はドローン。市役所の仕事の傍ら、当法人ができる前から障害者の自立生活介護にも関わっていた。



## 【細谷 常彦】

大阪出身の 69 歳。かに座の B 型。1981 年に国際障害者年箕面市民会議に参加。1987 年に豊能障害者労働センターに就職。2003 年に労働センターを退職してから、ゆめ本社、ゆめ風基金を経て、現在フリー。好きなものは島津亜矢から寺山修司、ビートルズ、ボブディラン、新垣結衣まで様々！今一番の興味は「あるようでなく、ないようである年齢からくるあきらめ感、または島津亜矢の将来」。「恋する経済」という H P、ブログを開いています。  
H P 恋する経済 <http://koisuru.net/>  
ブログ・恋する経済 <http://koisuru21.blog.fc2.com/>  
(「恋する経済」で検索)

すいしんきょう

## 推進協のあゆみ

- 1982 年 4 月 豊能障害者労働センター設立。(天然粉石鹼の販売を仕事として、障害者の働く場運動を始める)
- 1985 年 5 月 箕面市障害者共働作業所そよかぜの家設立。(箕面市で最初の作業所として設立)
- 1985 年 10 月 箕面市障害者自立の店 たんぼ共働作業所設立。
- 1991 年 5 月 パンハウス・ワークランド設立。  
(パンを焼く職人が見つからなかったため、2 年だけという約束で武藤さんが働く)

↑ すすしんきょうだんたいせつりつまえ  
↑ 推進協 団体設立前↓ すすしんきょうだんたいせつりつこ  
↓ 推進協 団体設立後

- 1993 年 2 月 3つの障害者市民団体(労働センター、ワークランド、そよかぜの家)と市民が資金を拠出し設立。  
(事務所はワークランドの2階) 当会が行政との話し合い窓口となる。
- 1993 年 3 月 自立生活をする障害者市民への介護派遣及びコーディネートを始める。
- 1994 年 4 月 箕面市の登録ヘルパーとして介護派遣を始める。
- 1995 年 10 月 事務所移転(箕面市箕面5丁目)
- 1998 年 3 月 当会を事業所登録する。
- 1998 年 5 月 5周年記念イベント『明日へファースト・ラン』開催。(講師:木之下孝利さん、入部香代子さん)
- 1998 年 12 月 事務所を現住所に移転。
- 1999 年 4 月 NPO法人設立総会開催。
- 1999 年 9 月 大阪府よりNPO法人の認証を受け法人登記を行う。
- 2000 年 4 月 箕面市と箕面市在宅単身生活重度障害者ホームヘルプサービス事業の委託契約を締結。
- 2000 年 4 月 箕面市と市町村障害者生活支援事業の委託契約を締結。  
業務開始にあたって市町村障害者生活支援事業の専門部署「ライフタイムミント(通称)」を設置。  
サービス圏域は箕面市・池田市・能勢町・豊能町。
- 2003 年 4 月 支援費制度の開始。  
大阪府より身体障害者居宅支援事業者の指定を受け4月事業開始。  
大阪府より知的障害者地域生活援助事業者の指定を受け4月よりグループホーム 結(ゆい)開所。
- 2003 年 9 月 当法人10周年記念イベントを開催する。  
(講師:牧口一二さん、パネリスト:荒木邦公さん、今井雅子さん。らいとぴあで記念講演と懇親会)
- 2004 年 2 月 中心人物である武藤さんが脳出血で倒れる。(3か月の入院、リハビリを経て5月に退院)

だい に ぶ ねんびょう  
第二部の年表に続く……



# ●推進協座談会 第一部

かいさいび ねん がつ にち もく ばしよきょうりよく み み う の お て ん  
【開催日：2016年10月27日(木) 場所協力：美々卯箕面店】

## すいしんきょう かんぱい 推進協に乾杯!

菊池：今回は推進協(当法人の略称)の機関紙ファーストラ  
ンが次回で100号になるので、その100号記念の特集という  
ことで、進行役を務める通信スタッフの菊池です。よろしく  
お願いいたします。過去の推進協がどういう流れの中で設立  
して今に至るのかというのを新しい職員さんや会員さんに改  
めて知っていただこうと思い、古くから推進協に関わられて  
いる方達で座談会を開いて、それを記事にすることになりま  
した。座談会是一部と二部に分かれて、今回が一部という事  
で団体を設立するまでの話を中心にさせていただこうと思  
います。あと、すみません!通信の新しいスタッフで皆さんの  
顔と名前が一致してない人がいるかもしれないので、改めて  
自己紹介をお願いしてもよろしいですか?

細谷：細谷と言います。私はですね、豊能障害者労働センター  
(注1)でずっと働いていたんですけど、そこで92年に推進  
協を作ろうっていう事になって、最初に参加させていただ  
いた者です。よろしくお願いします。

永田：今は障害者共働事業所たんぼぼ(注2)の永田ですが、  
推進協の団体設立の時からずっと関わっています。よろしく  
お願いします。

濱辺：濱辺です。障害者運動については河野さん(注3)と  
で出会うのが運のツキで……。

細谷：運のツキ(笑)。

濱辺：なんとか役に立てればと思います。35年ほどやってお  
ります。ところが推進協の話になるとトンと分からないんで  
す。ちょうど僕が50歳の時に団体設立されたんですけど、45

歳ぐらいから完全に会社人間になってしまって、地域の活動では国際障害者年箕面市民会議(注4)に参加するぐらいしか  
してなかった、今日は逆に武藤さんに質問しようかなと思って。そんなんで、よろしくお願い致します!

大道：大道広子です。よろしく申し上げます。そよかぜの家(注5)職員として関わりながら、武藤さんが推進協を立ち  
上げていくっていった時に一緒にいたかなと思うんですけど……現、推進協理事です!

武藤：流暢にしゃべる記憶は全くないんで!ほとんど私、忘れてますんで、期待せんといてください!

高岡：高岡です。現理事でお世話になっています。推進協は立ち上がった頃に介護人を探すための「ガッテンだ!」とい  
うのを武藤さんが一人でやってたんです。その時に「ガッテンだ!」グループの一員になりまして3年ぐらいそこで参加  
させてもらったのが最初で。あと、グループホームの設立の時に、「のび」(注6)とか、やりました!高岡です、よろしく  
お願いします。

菊池：本当は河野さんも出席していただきたかったんですが……今回、倒れられたため参加ができず、残念ながら……。

永田：諸悪の根源はみんなあの人です!(一同笑)ちなみに、今ここにいる通信スタッフは何年ぐらいおられるんですか?

菊池：通信スタッフは新しい職員ばかりで、今年からの人が二人と5~7年の人です。

一同：ふ〜ん。

濱辺：そんなら騙そう(一同笑)!

高岡：ちょっと間違った記憶でもOKで(一同笑)!



しんこうやく きくちこうじ すいしんきょう  
進行役の菊池康治。推進協ではグループホーム運営を担当。

菊池：では、まずは乾杯で始めさせていただくということで(笑)！  
 細谷：何に乾杯するの？  
 高岡：推進協に！  
 一同：じゃあ、乾杯！  
 濱辺：全員で乾杯ができた！珍しいね！  
 永田：珍しいね(笑)！



(注1) 豊能障害者労働センター：卒業して行き場のない障害者の働く場として1982年に誕生した事業所。当初は6人でスタートしたが、現在は60人の大所帯に。リサイクルショップや食堂を運営。<http://www.tumiki.jp/>  
 (注2) 障害者共働事業所たんぼぼ：1985年に共働作業所として誕生。「障害があってもなくても、共に働き、共に生きる」事を目指し活動。小学校の購買部、リサイクルショップなどを運営。2012年4月に箕面市障害者共働事業所へ移行。

<http://www.tanpopow.com/>

(注3) 河野さん・河野秀忠さん。70年代後半に箕面に移住して、箕面の障害者運動を先導してきた人。推進協が任意団体だった頃に運営委員会代表も務めていたことがある。障害者のための総合雑誌『そよ風のように街に出よう』の創刊時からの編集長も務める。その雑誌も来夏に惜しまれつつ終刊することに。

(注4) 国際障害者年箕面市民会議：1981年、国際障害者年に箕面市民の集まりにより発足した市民会議。

(注5) そよかぜの家：現在は「NPO法人 そよかぜ」。1985年に市内の中学校を卒業した一人の少年の進路をめぐって教職員と市民が協議をして生み出された箕面で最初の作業所。就労継続支援B型事業所としてリサイクルショップや陶器制作・販売などを運営。<http://nposoyokaze.org/>

(注6) のび：サークル・のび。国際障害者年箕面市民会議の昼間に活動するグループ。もともとは「ささゆり」という名前だったが、改名して「のび」に。農園を作ったり、働くための場やグループホームの必要性について考えたり、様々な障害者問題に取り組んでいた。

## 始まりは1981年、国際障害者年箕面市民会議

菊池：今回は「団体設立のきっかけ～団体設立」の話ということになります。で、武藤さんを軸に考えると、推進協を立ち上げる前段階で1982年4月に豊能障害者労働センターが設立されたというところが、大本になるのかなと。で、労働センター（豊能障害者労働センターの略称）の設立の辺りからお話を聞かせていただけたらなと思っています。



永田：最初から異議を申し立てます(笑)！豊能障害者労働センターができたのも国際障害者年箕面市民会議が箕面にできたことからなので、国際障害者年箕面市民会議から始めるべきだと思います！

菊池：そうなんですか？

永田：うん。労働センターを作ったのは武藤さんだけど、国障年（国際障害者年箕面市民会議の略称。本文では市民会議とも言われる）ができたことで労働センターができたから。武藤さんが最初に障害者団体全体で集まったのは国際障害者年で1981年ぐらい。

菊池：1981年？

永田：1980年からあって、国障年の中で武藤さんが、「小泉さん(注7)が

養護学校を卒業して行き場がない！」と言って労働センターができた。だから国障年がなかったら労働センターもないので、そこから始まるのはちょっと。

濱辺：この国障年の流れっちゃうのは箕面だけの流れじゃなくて全国的な流れを受け継いで箕面へたどりついたっていうのがあるんです。いわゆる、神奈川県川崎を中心にあったCP(脳性麻痺)の人らの集まりで青い芝(注8)の運動があって。被差別部落出身者による水平社宣言よりもビックリこくような「愛と正義を否定する」とか「我らは問題解決の路を選ばない」というテーマで真向から健常者とぶつかるような。そんな全国的な流れから箕面で皆を引っ張ったのは河野さんで、キーマンが武藤さんであって。で、続けて言うていいのかな？

菊池：はい、どうぞ！



はまべ しょうがいしゃもんだい かな かな せんご  
濱辺：障害者問題を語るときにどこから語るねんっていうたら「戦後  
しょうがいじん たいしやう ふくし しょうがい も ひとすべ  
の傷痍軍人を対象にした福祉なのか、それとも障害を持った人全ての  
問題として扱うのか」という流れがずっと来ててね。で、もっとも  
けんちやう あらわ ねん よ なか あんぼとうそう へ せんきやうとうんどう  
顕著に表れだしたのが 70 年。世の中も安保闘争を経て全共闘運動も  
しゅうちやく なか よ しき かな  
終着した中で世の仕組みっちゅうのが変わったわけですね。いわ  
ゆる右翼とか左翼とか言われている層の中で。で、僕なんかは元々  
ろうどうくみあい やくいん かわの さんは、もっとはで かくめいかてき  
労働組合の役員をしてたんです。河野さんは、もっと派手に革命的  
なものを持っていたし、大衆と一緒に反戦運動もやっていたし、色ん  
なことをやってはったね。で、79 年頃やったかな、かわの さんのみのお  
へ降臨してきた。「下し給うた」という感じでね！  
いちどう ばくしやう  
一同：(爆笑)。

はまべ ばく しょうがいしゃもんだい まえ と あ  
濱辺：僕らにしてみたら「障害者問題をお前ら取り上げんかい！」と  
いうような勢いで降りてきはって。当時、今の労働センターの事務所  
ぜんしん みのおしきやうしきいんくみあい はな  
の前身が箕面市教職員組合で、そこへ話しに行ったんです。そした  
ら、たまたまかわの さんがいて。その時に初めてかわの さんに会ったのだ  
とおも  
と思います。

たかおか し  
高岡：それは知らなかった。

はまべ ばく しょうがいしゃもんだい まえ と あ  
濱辺：で、初めて会った時に「来年、障害者年というのがあると、なんかせえへん？」という話を持ち込んでこられたん  
ですよ。そして国障年のスタイルを作った。まあ、国際障害者年箕面市民会議というのは 81 年の 3 月 8 日に設立し  
ましたけども、それまでに交渉を始めたり勉強会をしたりしてたんです。「国障年という国連が決めた枠組みってどんな  
や？」という。国連・障害者の十年の規約があるわけですから、行政の人たちと一緒にその規約の勉強会を開いて知ろうと。  
で、これもまた面白い話なんやけど、箕面市ではその当時 80 年以前は、役所の人はおおびらに「箕面市には障害者問題  
はありません」と言うたんです。まあ、えらい福祉の係長で某 K さんですけど(笑)。

いちどう わらい  
一同：ハハハハハ(笑)！

はまべ ぎやうせい はなし ふくし だんたい ふ ぼ かい おや かい ふくしかい き  
濱辺：で、行政は「話は福祉 3 団体(「父母の会」「親の会」「福祉会」)から聞きますので……」という感じでいなしてき  
たんです。そこで「国際障害者年をどう考えるねん！なら、我々が資料を集めて学習会を開くんで行政も出て！」って  
言って、最初  
から和やかにやりだしたのが、そもそも始まり(笑)。その時、武藤さんたちは恐らく国障年は意識してなかったね。「小泉  
さんが高校卒業しても行くとこないやん！」というのが武藤さんや一緒にいた八幡さん(注 9)のテーマやって。で、僕  
ら市民が「国障年や、なんかしようや！」言うて旗揚げしてね。その結成大会をやって 100 人ぐらいの人が集まりました。

きくち にん  
菊池：100 人も！

はまべ ばく しょうがいしゃもんだい まえ と あ  
濱辺：ええ。その中で国障年箕面市民会議に参加しますっていう了解をしたのが 70 名いた。そこへ梶さん(注 10)のお母  
さんが入って来られたり、亡くなられたけど筋ジスの古市さん(注 11)という方がおられて。

きくち いったん おの こ  
菊池：ここで一旦、小野さんが来られたので、あらためて乾杯！

おの おそ  
小野：すみません、遅くなりました！

きくち おの ほんぶん すいしんきやう み いま ちてん くれしやう  
菊池：うーん、(小野さんに本文 6 ページ『推進協のあゆみ』を見せて)今まだスタート地点にいてないんですよ……(苦笑)。

おの おの はなし なか おも わらい  
小野：ああ、なるほど！ここの話が長いと思いますよ(笑)！



(注7) 小泉さん：小泉祥一さん。豊能障害者労働センター現代代表。重度障害のある箕面市民。  
 (注8) 青い芝：全国青い芝の会。障害者のうち、脳性麻痺者による問題提起などを目的として組織された障害者団体。  
 機関紙『青い芝』。  
 (注9) 八幡さん：八幡隆司さん。阪神淡路大地震をきっかけに被災地の障害者支援を主とする活動を行う「NPO法人ゆめ風基金」<http://yumekaze.in.coocan.jp/> の理事、事務局員。  
 (注10) 梶さん：梶敏之さん。豊能障害者労働センターで現職。重度障害のある箕面市民。  
 (注11) 古市さん：古市章郎さん。筋ジストロフィーの重度障害者。1991 年に永眠。

## こくしょうねん さいきょう 国障年の最強トリオ

濱辺：で、3人言うたかな？古市さんと……。  
 菊池：古市さんと小泉さんと梶さん。  
 濱辺：これが設立当初、いわゆる国障年の設立当初の最強トリオですわ！  
 永田：トリオ(笑)！  
 濱辺：彼らがおったから色んな問題に行政と対応することができた。まず古市さんは……これ話したら長いからなあ(笑)！  
 細谷：それは言うとかないかん。  
 濱辺：箕面市役所の別枠採用の第一号です。彼は親と一緒に如意谷団地に住んでいて、東能勢、今の豊能町で三伸化成い  
 うポリ袋を作ってる会社に就職したんですよ。で、そこで賃金はぼったくられるは、残業はあるわでえらい目にあって、  
 相談を持ってこられて。当時、色んな相談が入ってきたけど、古市さんの三伸化成の、今でいうブラック企業の訴えが一番  
 顕著やね。で、「どうするべえか」言うて大阪弁護士会の人権救済委員会で提訴して。そんで勧告をもらて会社とやりあっ  
 て。結局、和解してから辞めましたけどね。そうやって一つ一つ問題に対応していったりして。  
 菊池：う～ん。  
 濱辺：それが、箕面で運動と言われるものが始まった一滴です。そこからスタートです。  
 永田：そして、それが対市交渉の一番始まりなんです。国障年と古市さんの三伸化成の問題が第一回目。  
 濱辺：それが81年のこと。  
 永田：そこから国障年というところを基に。だから、今も国障年って名前だけしかないけど対市交渉申し入れ書の一番上  
 に名前を連ねているんです。  
 濱辺：もう1人、梶さんも絶対はずせないですよ！紹介さして一な！  
 永田：Hさん(注12)は？Hさんはどないするの？  
 濱辺：Hはちゃうわ。あれは僕の腰痛の元凶(笑)。  
 永田：腰痛の元凶(笑)。  
 濱辺：いまだに腰痛や(笑)。で、梶さんはどういう人か言うたら、もともと箕面で生まれた人なんですけども  
 ……僕らが会った時はいくつぐらい？  
 永田：中学2年で14歳ぐらい。

## とも まな とも そだ 共に学び、共に育つ

濱辺：ちょっと迴りますけど、梶さんにも関わる教育問題について。いきますね。  
 永田：フッフ(笑)！  
 濱辺：箕面の教育。いわゆる「共に生きよう」って僕らはよく言ってますよね。  
 永田：「共に学び、共に育つ」。  
 濱辺：そう、共に地域で学ぼうっていうことが僕らのテーマみたいなもんです。その箕面市教職員組合が中心になって、  
 比較的早い時期から地域の学校へ受け入れするようになってるんですよ。で、もともとは西南小学校に、僕らもよく知っ  
 てる「特殊学級」という言い方の学級があって。その、西南小学校だけが障害を持った子どもたちの児童の行き場だった  
 んですよ。  
 菊池：西南小だけが？  
 濱辺：そこへ教師たちが疑問を抱いて、「地域で共に学ぼう」というスローガンを立ててやった。最初の「原学級保障」、



かくり  
隔離するんじゃなくて、「何年何組の梶君」ということで原学級の  
ざいせき  
在籍は保障して。で、科目によっては養護学級みたいところで  
じぶん  
自分の勉強をするという。こういうスタイルを作りだしたのが早  
かったんです。

はまべ おな じ き しょうがいじほいく はじ  
濱辺：同じような時期に「障害児保育」も始めてるんですよ。こ  
れはすばらしい、誰がやりだしたんでしょうね？

はそたに かじ  
細谷：梶さんって聞いてますよ。

はまべ かじ  
濱辺：それも梶さんからなんや？

はそたに かじ ひとり ともだち  
細谷：梶さんだけじゃないけど、梶さんのもう一人のお友達がずっ  
と一緒<sup>いっしょ</sup>にいて。そんで幼児保育も要求<sup>ようきゅう</sup>して。

たかおか ほいくしよ ころ しょうえん だめ  
高岡：保育所<sup>ほいくしよ</sup>ができてる頃<sup>ころ</sup>ってというのは、幼稚園はまだ駄目<sup>だめ</sup>でし  
たね。

はまべ さくらほいくしよ  
濱辺：桜保育所と……。

たかおか みのおほいくしよ  
高岡：箕面保育所もやってましたね。

はまべ  
濱辺：もうやってました？

たかおか う じ 午後 だめ おも  
高岡：だけど、受け入れるけど午後は駄目<sup>だめ</sup>だったと思うんです。  
午前中<sup>ごぜんちゅう</sup>だけ。

はまべ ねん さい ちゅうがっこう  
濱辺：それで、梶さんがちょうど 82 年に 15 歳<sup>さい</sup>になって、中学校  
を卒業<sup>そつぎょう</sup>する時までに梶さんのお母ちゃんが行く末<sup>すえ</sup>を考えたわけ  
です。「この子が卒業したらどうしよう」と。で、「なんとか役所  
行って頑張<sup>がんば</sup>って交渉<sup>こうしょう</sup>してくるわあ」「いってらっしゃーい」言うて。

きくち わらい  
菊池：(笑)。

はまべ しちょう い やくしよ しちょうしつ い すばらしい かあ  
濱辺：ほんならやることが、また市長とこに行くし、役所の市長室でも行くし、すごい馬力のある素晴らしいお母ちゃん  
でしたね。

ながた みな し とき しちょう なかい ぶ へえ  
永田：皆さん知らない？その時の市長、中井武兵衛さん。

きくち なかい  
菊池：中井？

ながた なかい ぶ へえ ねんから ねん みの おしちょう  
永田：中井武兵衛。(1973 年～1993 年までの箕面市長)

はそたに かじ せんきょい とき い  
細谷：梶さんが選挙行く時に「ナカイクヘエ、ナカイクヘエ」言うてまして。

いちどう わらい  
一同：(笑)。

はまべ なか い ふるいち しょうがいしゃ べつわくさいよう ふく しゅうろう げんそく  
濱辺：その中でさっきも言うた古市さんが職員<sup>しよくいん</sup>になった。いわゆる障害者の別枠採用<sup>べつわくさいよう</sup>も含める「就労 5 原則」<sup>しゅうろう げんそく</sup>みたいなや  
つを作って、役所と交<sup>か</sup>わして。

ながた げんそく ちゅう いま ぜんぜんふる  
永田：あの「5 原則」(注 13)、今でも全然古くないですよ。



はまべ ふる  
濱辺：古くないです。

ながた わたし み  
永田：私こないだ見てみて「へえーっ」っ  
て思<sup>おも</sup>って。

だいどう げんそく  
大道：「5 原則」って？

ながた しみん かいぎ げんそく  
永田：市民会議が「5 原則」っていう  
つくの作<sup>つく</sup>ったんです。

はまべ べつわくさいよう げんそく しゅうろう  
濱辺：『別枠採用の 5 原則』……就労に  
たい  
対してね。

だいどう ないよう  
大道：どういった内容？

はまべ こうかい げんそく  
濱辺：「公開の原則」とか。

ながた  
永田：いわゆるサポートね。だから、  
こうりてきはいいよ ことば いま  
「合理的配慮」というような言葉で今は  
い  
言われているけれども、それにあたる  
ようなこともちゃんと書いてある。

はまべ  
濱辺：そうそうそう。





永田：「配慮すべき」という意味ね。障害者別枠をする場合は。

細谷：ちょっとだけ補足すれば……さっき言うた「箕面の教育が意外と進んだ」というのは、間違ってる！

永田：(爆笑)。

細谷：それは西南小で障害児教育を勝ち取ってん、やっ！

濱辺：そうなんや。

細谷：あれ「西南方式」とか言ってるのは、それまで受け入れてへんかってんから。ほんで「受け入れていこう」言うて。

濱辺：ああ、全然受け入れてなかったんや。



細谷：深夜に倒れそうになりながら交渉したという話を聞してる。あの有名な委員長が！

一同：(笑)。

細谷：小泉委員長いうのがおってね。「この子らは地域の子らんや！」言うて深夜までやりおうて。なんとか西南小学校で「センター方式」いうやつで。豊中はそのなんも早くしてたから。それで豊中のを学習して箕面も動いて。その中で、なんとか西南小がなって。次に箕面第一中学校かな。実を言うたら当時はまだ介護保障がないねん。だから、お母さんがずっと一緒に行ってた。

菊池：えっ、お母さんが？

細谷：梶さんのお母さんが「送り迎えするから受け入れを！」言うて。

菊池：それで、お母さんが……。

細谷：今そんな言うたらね、「なに言うとなねん後退しとる」言われたらあれやけど、ほんまにこじ開けるために、梶さんのお母さんが一生懸命でしたね。ほんで「私が送り迎えします」いうことを条件に、やっ！受け入れた。

濱辺：修学旅行も行きましたよ！

細谷：地域の学校に障害児が行った。初めに行っただの一人なんですよ。という、実を言うたらまだ苦難の時代ですわ(笑)。

永田：それでも随分いじめられたり色々あったと……。

菊池：あ、あったんですか。



ほそたに ぜんぶ かあ た  
細谷：それを全部あのお母さんが耐えてね。

ながた ちゅうがっこう あつ がくせいふく からだ あ い はじ とも  
永田：中学校でストーブで熱くした学生服のボタンを体に当てられたとかね。言うてみたら初めてでしょ？「共に」という下地ってのがあんまりないからか。そんで梶さんっていつもニコニコしてるからねえ、その辺が分かりにくいし。まあでも、形に残れば分かるけどね。

きくち あと のこ  
菊池：跡が残れば……。

ながた うん。でもそういうことはいくつかあったりして。まあ、わたし げんば ちよくせつかか  
永田：うん。でもそういうことはいくつかあったりして。まあ、私もその現場に直接関わっていなかったから、それをどうしたかまではちょっと知らないけど、「そういうことがいっぱいあったよね」という。

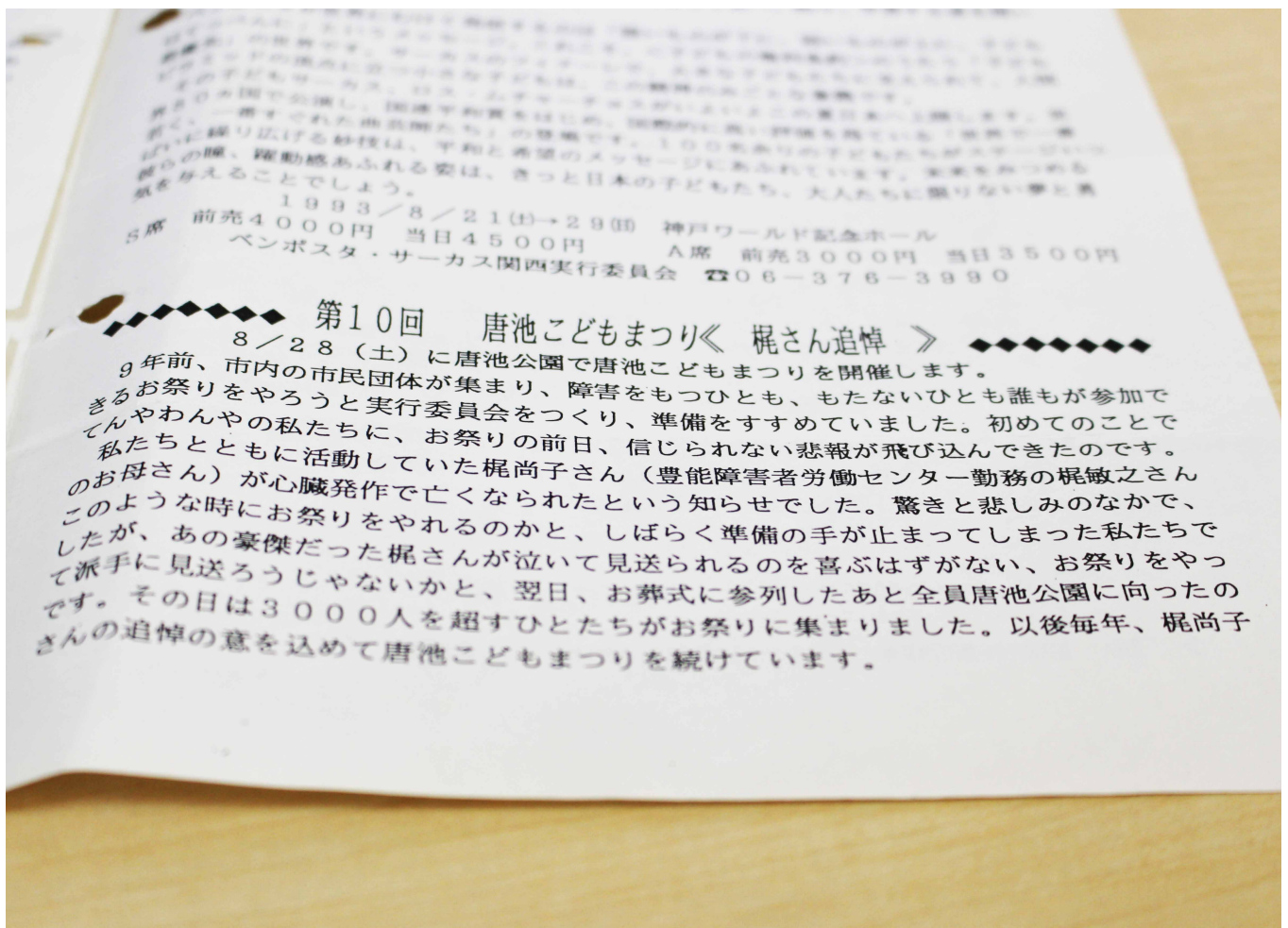
きくち  
菊池：うーん。

ながた だから梶さんとお母さんは、中学校を卒業した後にはわざわざ支援学校に行くのいいとは思えないというので、市長 なんか「働かせてくれ」ってずっと働きかけて、やってはってんね。

ほそたに しめんかいぎ き い ひと  
細谷：それを市民会議が聞きつけて「そんなことを言うてる人がいてる」いうことで「話聞こう」言うて……。せやから しめんかいぎ はほんまに、しょうがいしゃうんどう つく だんたい きほんてき かんが かつ  
市民会議はほんまに、障害者運動を作った団体。基本的な考え方なんやから。

ちゅう えいち ほんにんきぼう ひょうじ とよのしょうがいしゃうんどう もとじ む きょくちょう じゅうどうしょうがいしゃ げんざい かんどう  
(注 12) H さん：本人希望によりイニシャル表示。豊能障害者労働センターの元事務局長で重度障害者。現在は関東に  
いじゅう  
移住。

ちゅう こげんそく しょうがいしゃ こうむいんさいようけんとう かん きほんげんそく こくさいしょうがいしゃねんみのおしみんかいぎ ていあん  
(注 13) 五原則：「障害者の公務員採用検討に関する基本原則」として国際障害者年箕面市民会議が提案したもの。五つの  
げんそく ないよう つぎ とお つうしん てんさい  
原則の内容は次の 14 ページの通り。(『ささゆり通信』から転載)



みのおし ねん ねん ねんかんつづ からいけ じっごういんかい かじ かあ さんか  
箕面市で 1984 年から 2014 年まで 30 年間続いた「唐池こどもまつり」の実行委員会にも梶さんのお母さんは参加されていた。  
さいしよき とう ねん がつはっこう まつ とうじつ かあ な とき  
最初期の『ファースト・ラン』3号(1993年8月発行)でもお祭り当日にお母さんが亡くなられた時のことがふれられている。

## しょうがいしゃ こうむいんさいようけんとう かん きほんげんそく 障害者の公務員採用検討に関する基本原則

しょうがいしゃ こうむいんさいよう いっぱんこうむいんさいよう ほうれいなど さだ しょうげんそく  
障害者の公務員採用にあたっては、一般公務員採用において、法令等に定められている諸原則のほか、  
しょうがいしゃ しゃかいてきしよじょうけん こう かんけいほうれい けんぼう せかいじんけんせんげん こくさい  
障害者のおかれている社会的諸条件を考りよするとともに、関係法令、憲法、世界人権宣言、国際  
じんけんきやく こくさいしょうがいしゃねんこうどうけいかくなど きはん つぎ げんそく そうこうてき けんとう  
人権規約、国際障害者年行動計画等を規範として、次の 5 原則を総合的に検討するものとする。

### こうきょうせい げんそく ● 公共性の原則

しょうがいしゃ こうむいんさいよう しょうがいしゃ かんぜんさんか びょうどう ほしょう しさく いっかん しょうぎょうせんたく  
障害者の公務員採用は、障害者の完全参加と平等を保障する施策の一環であり、とりわけ職業選択  
じゆう しょういきさんか けんり ほしょう こうきょうだんたい せんどうてき けいはつてきやくわり は  
の自由、職域参加の権利、保障にかかわって、公共団体が先導的、啓発的役割を果たすべきである  
という認識に基づく公共的な政策として位置づける。

### きかいきんとう げんそく ● 機会均等の原則

しょうがいしゃ こうむいんさいよう しょうがいしゃ たい こうへい びょうどう にんしき  
障害者の公務員採用はすべての障害者に対して、公平、平等でなければならないという認識のもとに、  
こうばさいよう ほうほう べつ しけんほうほう さいようご しょうしゅ しょうむせんたくなど しょうがいしゃ たいよう なら  
公募採用の方法（別枠）、試験方法、採用後の職種、職務選択等においては、障害者の態様、並び  
しょうがいしゃ しゃかいてきしよじょうけん ひさべつじょうきょう たようせい おう たよう せんたく きかい ほしょう  
に障害者のおかれている社会的諸条件（被差別状況の多様性）に応じて多様な選択の機会を保障す  
るものとする。

### ふくし のうりつてききんこう げんそく ● 福祉、能率的均衡の原則

しょうがいしゃ こうむいんさいよう ぎょうせいみんしゅか きよ じゅうふんにんしき ぎょうせいぜんたい こうりつてきうんえい  
障害者の公務員採用は行政民主化に寄与することを充分認識するとともに、行政全体の効率的運営  
きんこう そこな じゅうふん はい せつきよくてき  
との均衡が損われないよう充分に配りよしつつ、積極的にすすめるものとする。

### とくべつはい げんそく ● 特別配りよの原則

きゅうよ みぶんたいぐうなど しょうむ しょうかいべつ なら きんむじょうけん たいおう こうへい びょうどう しょうぐ  
給与、身分待遇等はすべて職務、職階別、並びに勤務条件に対応して、公平、平等に処遇されるべ  
きであるが、勤務、就労条件もふくめ、必要に応じて特別の配りよが講じられなければならないも  
のとする。

### きょうどう きょうろう げんそく ● 共同、共労の原則

しょうがいしゃ けんぜんしゃ きょうどう こうむすいこう かのう ぶつりてき せいしんてきしよくばかんきょう せいび そくしん しょうがいしゃ けんぜん  
障害者と健全者が協同して公務遂行が可能な物理的、精神的職場環境の整備を促進し、障害者と健全  
しゃ ぶんり とも はたら しょうば ほしょう  
者を分離するのではなく、共に働く職場を保障することとする。

いじょう げんそく さいようきじゅん さくてい したが しょうがい りゆう さべつ おこ  
以上の 5 原則にもとずき、採用基準を策定する、従って障害を理由とする差別は行なわない。



## べつわくさいよう せんたく 別枠採用と「つらい選択」

菊池：いや、僕もどこまで遡る必要があるのか分からないまま  
年表(冒頭の『推進協のあゆみ』参照)を労働センターから  
始めたんですけど……(笑)。

細谷：市民会議から色んな話をするのが典型的だね。

永田：私も市民会議がなかったら今ここにいないですよ。

細谷：やっぱり「時代が変わった」言うても知っとかないけ  
ない、なんて僕は思うんです。

菊池：うん。

細谷：推進協の基本的な考え方の元になってるのは市民会議  
が作ったんです。

永田：そうそうそうそう。

武藤：俺は知らんよ。

菊池：ん？

濱辺：なんで知らんの！？

永田：ちゃうちゃう、忘れちゃっただけです。

一同：(笑)。

武藤：最初に豊能障害者労働センターができたじゃないです  
か。そのできた段階で河野さんが連れてきたんよ。梶さんを。  
で、「この人がここでやるから」って。アンタが知らん間に連  
れてきたんやんかと(笑)！

一同：(笑)。

細谷：それはなんでやと言ったら、さっき言った市民会議で  
「別枠採用せよっ！」っていう初めての要求をナンボかやつ  
とったわけやね。モデルとして豊中で視覚障害者の人のそれ  
が成功してるから。梶さんもどちらかと言えば「梶さんを  
先頭に立てて！」って運動してて。

武藤：俺はなんの事情も知らんのですよ！

一同：(笑)。

菊池：なんの事情も知らないのに(笑)。

武藤：「忘れてる」じゃなくて「知らない」。

細谷：梶さんを先頭に立てて「この人を雇え！」とバンバカやつ  
て。

高岡：それは初めて聞いた。

細谷：古市さんがいて片方は梶さん。市民会議の要求はやね、  
主にこの梶さんを「就業させろ！」って交渉を言うたわけよ。

ほんだら相手は理念で「なんとかせなアカンな」思うけども、  
まあ、バリバリの脳性麻痺やしね(笑)。

濱辺：(笑)。

細谷：叩き上げやと(笑)。でも、なかなか現実として難し  
いところだね。市民会議の意向で職員組合の人達が入って  
行政とちょっとした交渉と調整をしとったからね。その中で  
「古市さんやったら市役所で雇ってええんじゃないか」という  
ことになって。それはほんま市民会議にとってつらい選択やつ  
たと思うわ。その時ね、彼は要するに筋ジスだったけど、そ  
んなに介護必要とせんわけやねん。

永田：車も運転してはったしね。



ほんぶん とうじょう かん ていひょう かし  
本文にたびたび登場、ニコニコ感に定評のある梶さん

ほそたに しょくぎょうてきのうりよく かじ  
細谷：もちろん職業的能力もあるし。だから梶さんはアカンけど……。

はまべ わらい  
濱辺：みんなに、それぞれのドラマがっ(笑)！

いちどう  
一同：(笑)。

ほそたに としき ぎょうせい のうりよく りょうほうつ あ と こくしやねん としき いちおうみの おし  
細谷：その時に、行政は「この能力があったら、なんとか両方釣り合い取れるやん、国障年の時やし」とね。一応箕面市  
も障害者雇ったし成果になるやん。せやけど……彼は筋ジスやからどんどん障害が進むわけやんか。そのフォロー全然

なかってんから(怒)！

はまべ おこ  
濱辺：怒ってるやん。

ながた くしょう  
永田：(苦笑)。

お の ぼく しやくしょ かずすく ふるいち ともだち おも  
小野：あのう、たぶん僕は市役所で数少ない古市さんの友達やったと思います。

はまべ い  
濱辺：言うとしたねえ。

お の いっしょ あそ い いえ い なんど あそ い  
小野：一緒に遊びにも行ったし家にも行った。何度が遊びに行きましたねえ。

ながた ふるいち せい か せい かし わたし  
永田：古市さんが市に就職したあと、私たち、「のび」がサポートしてたんだけ

どね。

たかおか  
高岡：うん。

ながた ちゅうとしょうがい けつきよく じぶん いろ  
永田：ただ、やっぱり中途障害だし、結局自分で色んなことができるから、

がんば す  
頑張り過ぎるというかね。

いちどう  
一同：うん。

ながた わたし さんざん い ひる しょくどう はん た い くるまいす  
永田：私たちは散々言うたんやけどね。「お昼に食堂にご飯を食べに行き！」って言ったんだけど、そのためには車椅子だ  
から、色んな人に色々サポートしてもらわないと。今で言う「合理的配慮」的なものが色々要ると。

いちどう  
一同：うん。

ながた い ふるいち か い しょくば た  
永田：それが言いにくくて。古市さんはパンを買って行って職場で食べたりね。

きくち  
菊池：う～ん。

ながた もの も  
永田：そんなことせんとね、物を持たれへんかったら「『持ってください』って言ったらええやないの！」というようなこ  
とまで、散々彼にはサポートしたんだけど。

いちどう  
一同：うん。

ながた わたし いっしょ つ そうだんごと けつきよく ふるいち しょくば い  
永田：私らがサポートするのは、一緒に付いていってじゃなく相談事だったからね。結局、古市さんは職場でそれが言え  
なかったから。小野さんが友達でいていただいたというのはあったけど、やっぱり言いにくいという……。今の市の中で  
別枠採用した職員と、市の職員がどういう関係にあるかっていうのは、そういうところから学んで欲しいんだけど。やっ  
ぱり彼は孤立化していったね。

はまべ いま  
濱辺：今でもあるんやな。

ほそたに しみんかいぎ おそろ しゅうだん  
細谷：市民会議はね、恐ろしい集団なんや。

いちどう わらい  
一同：(笑)。

ほそたに しみんかいぎ あとお かし しゅうしょく きより お  
細谷：せやから市民会議の後押しで彼は就職したんだけど、やっぱりちょっと距離を置いとかなマズイなっていうことは  
あったかもしれない。「市民会議いうたら怖いとこや！」と(笑)。

いちどう わらい  
一同：(笑)。

はまべ かけき はしゅうだん いっとき あお しば ぜんしやうれん ねんだい たたか れんちゅう はい  
濱辺：そりゃあもう過激派集団や。一時ね、その、青い芝とか全障連とか70年代の闘いをやってきた連中が入るととい  
う噂が流れて……。

きくち じっさい はい  
菊池：実際に入ってるんでは……。

はまべ せけんてき  
濱辺：それは世間的によ。

ながた はい かわの  
永田：入ってたんは河野さんだけやん。

はまべ  
濱辺：「だけ」いうことはないやろ。

ながた  
永田：だけやんかあ。

はまべ ぼく すみつ わらい  
濱辺：僕らお墨付きもうたもん(笑)。

ほそたに わらい  
細谷：(笑)。

ながた わらい  
永田：(笑)。





## いっばんし ぶん こくさいしょうがいしゃねんみの おしみんかいぎ 一般市民による国際障害者年箕面市民会議

はまべ 濱辺: それがまた「流れ」のオモシロイところで! 国障年ちゅうのは「ものすごく悪い」と言うた人もおるし、「これは使  
いものになる」と言うた人もおるし、千差万別やってん。で、箕面はセクト (集団) 的、政治的な流れに与してないんですよ。  
おおさか 大阪でも独立独歩。で、なんでそういうことができたかという、総評の力が強かったんですよ。大阪 総評って知ってます?

きくち 菊池: 知らない……(苦笑)。

ながた 永田: はははははははは。

おの 小野: 分からんでえ(笑)。

ほそたに 細谷: 無理無理っ(笑)。

はまべ 濱辺: 連合の前身で総評と中立労連と同盟と新産列と……。

おの 小野: ぐははははは、「三公社五現業」が無理やわ(笑)。

はまべ 濱辺: 要は「お墨付きくれた」いうのはね、初めて労働組合

が「障害者と連帯しよう」と言い出したんですよ。それを流

したんですよ、全部。ほんなら真面目な組合ってありますやん。

ながた 永田: 真面目な組合……(笑)。

はまべ 濱辺: 真面目な組合。

いちどう 一同: (笑)。

はまべ 濱辺: 自治労いうたら地方公務員の労働組合ね。いっばい変

な奴おるけども大阪はまたちょっと、なんか裏があるけども。

ながた 永田: 裏があるの?

はまべ 濱辺: いっばい裏があんねん。でも真面目やねん。とりあえず、

そういう大きな組織が、労働組合が障害者団体を支援しだし

た。

きくち 菊池: うん。

はまべ 濱辺: だから、箕面の市職……小野さんはここの人ね。それ

と教職員組合、先生。今はもうちょっとしかおれへんけど、

日教組言うたら今はかなり減ったみたい。

きくち 菊池: ふーん。

はまべ 濱辺: そういう流れがあって。その流れちゅうのは 89 年、

総評が解散する 92 年くらいかな?

ほそたに 細谷: 組合は熱が入ってんな(笑)。

きくち 菊池: なんかディーブな話になってきて(笑)。

ながた 永田: いつになったら推進協になっていくことか(笑)。

いちどう 一同: (笑)。

はまべ 濱辺: 推進協はその間に挟まってますやんか(笑)。

ながた 永田: その国障年というのは箕面市の市の職員組合と、箕面市教職員組合両方が団体加盟してたんです。だから今も仰

たみたいでセクトで何かしてるわけじゃないんだけど、市の教職員組合と……。

はまべ 濱辺: いやいや、一応大会方針で決議してますのでね。

ながた 永田: (笑)、そこがね! 国際障害者年箕面市民会議っていうのはわりあい色々網羅した形で団体組織をしていたんです。

さいしよ 最初からね。

ほそたに 細谷: だから国際障害者年〇〇というのは大阪府でも全部あったんですが、今言ったような組合とか団体の集まりだった

んです。せやけど箕面の特徴はね、永田よう子さんとかね、高岡さんとかね。要するにその普通の一般市民というか……。

たかおか 高岡: 一般市民です(笑)。

ほそたに 細谷: 職域団体じゃなくて、「そこに住んでる人たちを中心にしよう!」というね。田舎やということもあったけど、それ

はけこう 誇れるもんやってん。

はまべ 濱辺: 僕だけでっせ。ネクタイ締めてたん(笑)。

ほそたに 細谷: だから、一番ラジカルやってん。「住んでるところでモノを考えよう」っていうんだからさ。逃げられへんやんか。





かいしゃ やったたら家帰って「ちょっとこんなことあったけどな」で済むけど、そうでは済まへんやんか。ずっと繋がってるでしょ。

菊池：住んでるところと繋がってる……。

ほそたに 細谷：そのことで、障害者の親もずっと「生活者として」やってきた。今の推進協で言えばそういう「障害者の生活を支援しよう」とか「サポートしよう」をやってますやんか、一緒に。国際障害者年は全国にたくさんあったけど、そういうのは箕面市民会議がただ一つと言うてもええと思うわ。

たかおか 高岡：思うなあ。

ながた 永田：他はわりあい団体加盟みたいなのが多かったんですよ。

きくち 菊池：団体加盟？

ながた 永田：市職やとか教組やとか、組織的なものの集団が国障年というものを作っていたのが多いんだけど、箕面は市民一人一人。だから教組や市職は入っていたけど、基本的には一人ずつ。濱辺さんだって「濱辺さん」として入っててね。

ほそたに 細谷：豊中なんかは教育運動みたいなどころから、色々障害者運動とかあったけど、箕面は、教育はどちらかと言えば最初からあんまり良くなかった。

いちどう 一同：(笑)。

ほそたに 細谷：せやけど、市民が入る形の市民会議っていうのはね、箕面だけやったよ。

たかおか 高岡：そうやね。

ながた 永田：世界的に国際障害者年というものが始まるけれども、「それってなんなのよ」、「それをもっと市民として考えよう」というのが箕面の国障年なんですよ。

たかおか 高岡：市民会議。

ながた 永田：市民として。

きくち 菊池：今なんか……やっと分かりました！

ながた 永田：「一般市民が入る」というのは箕面市民会議の基本的なルールなり、1つのキーワードなんです。だから私たちも入れた。私も普通に子育てしていた中で障害者問題に関わってて、濱辺さんの斜め前に住んでいたというだけで……(笑)。

はまべ 濱辺：(笑)。

ながた 永田：だから、何かの団体に属して「国障年豊中」とか「国障年ナントラ」とかいう組織するところはあるけど、箕面みたいに一般市民で「じゃあ入って考えてみようか」と間口を広くしてというのはわりあい珍しいと思いますし、逆に言えば、だから長く続いているとも思います。10年とか20年とかいう時間の中で自然と解散されたところも多いけど。名前だけ残ってたりするにしても箕面はちょっと特殊性はあると思いますね。

はまべ 濱辺：変な言い方やけど市民会議って「正体不明」やから、障害者事業所とか作業所が何かやる時の受け皿になれんねん。

きくち 菊池：「正体不明」やから？(笑)。

はまべ 濱辺：「正体不明」やからなんでもありや(笑)。

ほそたに 細谷：創成期にはそういう言い方もあるけどね。急にこれ言うたら意味分からへんと思うけど。

ながた 永田：はははははっ(笑)。

ほそたに 細谷：その後、ものすごい経ってから「その役割をしたのが推進協や」というところに話がいく。推進協にいった時点で、国障年は一定、役割を終えたようなところがある。その時を引っ張った人はこの人やから。

きくち 菊池：武藤さん。

ほそたに 細谷：うん。

ながた 永田：ただ、今は倒れて話が繋がらない河野さんですら、こないだ話をしていたら、「永田さん、箕面の障害者運動の真ん中に国障年がないとアカンよね」っていう話をされたのね。

はまべ 濱辺：お～すごいなあ。

ながた 永田：「オッ！まだ繋がってるわ」て、その想いっていうのが彼の中にはまだあるんだと思うのね。現実的にどうかは別と



して、「<sup>こくしょうねん</sup>国障年<sup>みのおしみん</sup>箕面市民会議」という名前があるってことは、それを作ってきた色んな<sup>ほか</sup>他の<sup>だんたい</sup>団体<sup>かん</sup>に関しても、やっぱり「そのことが真ん中<sup>まなか</sup>にあったからできたんだよ」ってというのは大事なことやと思うんです。<sup>かわの</sup>河野<sup>あたま</sup>さんの<sup>なか</sup>頭の<sup>だいじ</sup>中<sup>おも</sup>にもまだそれがあるんやから。

<sup>ほそたに</sup>細谷<sup>ひと</sup>：あの人は全国のジャーナリストやねん。<sup>いがい</sup>意外<sup>みの</sup>と<sup>お</sup>箕面<sup>し</sup>でも知らん人おるけど。ジャーナリストとして「<sup>こくさいしょうがいしやねん</sup>国際障害者年<sup>みのおしみん</sup>箕面市民会議」を一緒にできたことを昔からずっと<sup>ほこ</sup>誇りに<sup>な</sup>しとった。<sup>かれ</sup>彼は<sup>ほか</sup>他のことは後からやったかもしれないけど「<sup>元</sup>は市民会議や」ってずっと言ってる。



## 1982 年 <sup>ねん</sup>とよのしょうがいしやろうどう <sup>せつりつ</sup>豊能障害者労働センター設立

<sup>ほそたに</sup>細谷<sup>むとう</sup>：武藤<sup>かわの</sup>さんが「<sup>きゆう</sup>河野<sup>かじくん</sup>さんが急に<sup>つ</sup>梶君<sup>き</sup>を連れて来た」って言ってたでしょう。その話<sup>はなし</sup>のやり取り<sup>と</sup>の中<sup>なか</sup>で古市<sup>ふるいち</sup>さんが就<sup>しゅうしよく</sup>職したわけ。そしたら梶<sup>かじ</sup>さんが残<sup>のこ</sup>っちゃたわけ。

<sup>むとう</sup>武藤<sup>おれ</sup>：俺<sup>あた</sup>の頭<sup>なか</sup>の中<sup>なか</sup>ではね、古市<sup>ふるいち</sup>さんは一番最初<sup>いちばんさいしょ</sup>に労働センター<sup>ろうどう</sup>の代表<sup>だいひょう</sup>やったけど、やめはったんですよ。

<sup>ながた</sup>永田<sup>し</sup>：市の職員<sup>しよくいん</sup>になったからね。

<sup>むとう</sup>武藤<sup>かわの</sup>：河野<sup>ふるいち</sup>さんが「あいつ<sup>うらぎ</sup>(古市<sup>ふるいち</sup>さん)裏切<sup>うらぎ</sup>った」と言<sup>い</sup>いはったんですよ！

<sup>はまべ</sup>濱辺<sup>わらい</sup>：わかるわかる(笑)！

<sup>ながた</sup>永田<sup>わらい</sup>：わかるけどね(笑)。

<sup>ほそたに</sup>細谷<sup>けつきよく</sup>：結局<sup>けつきよく</sup>、その時に市民会議<sup>しめんかいぎ</sup>で交渉<sup>こうしょう</sup>して別枠採用<sup>べつわくさいよう</sup>で古市<sup>ふるいち</sup>さんが入<sup>はい</sup>って、それはちょっとしたその時代<sup>じだい</sup>の実現<sup>じつげん</sup>。なんとかすり合わせできるかなっていう交渉<sup>こうしょう</sup>ね。その中<sup>なか</sup>で古市<sup>ふるいち</sup>さんが別枠採用<sup>べつわくさいよう</sup>されて梶<sup>かじ</sup>さんが残<sup>のこ</sup>るやん。そやけど、あの別枠制度<sup>べつわくせいど</sup>を作<sup>つく</sup>ったのは市民会議<sup>しめんかいぎ</sup>が作<sup>つく</sup>ったけど、梶<sup>かじ</sup>さんのお母<sup>かあ</sup>さんやで！河野<sup>かわの</sup>さんが先頭<sup>せんとう</sup>に立<sup>た</sup>ってボンボン言<sup>い</sup>いよったんや。そやけど、河野<sup>かわの</sup>さんは河野<sup>かわの</sup>さんで偉<sup>えい</sup>かったとこは、分<sup>わ</sup>かつとってん。梶<sup>かじ</sup>さんに「ど〜も労働センター<sup>ろうどう</sup>みたいなケツタイな(変わった)のができてるよ」って言<sup>い</sup>って。

<sup>いちどう</sup>一同<sup>わらい</sup>：(笑)。

<sup>ほそたに</sup>細谷<sup>かじ</sup>：「あそこ、梶<sup>かじ</sup>さんにええかもしれん」と思<sup>おも</sup>とったみたいやで、本人<sup>ほんにん</sup>が気<sup>き</sup>に入<sup>い</sup>れば。それを梶<sup>かじ</sup>さん気<sup>き</sup>に入<sup>い</sup>りはってん。<sup>むとう</sup>武藤<sup>かおみ</sup>さんの顔<sup>かおみ</sup>見て。「ここ<sup>い</sup>でええ」言<sup>わらい</sup>うて(笑)！

<sup>ながた</sup>永田<sup>ろうどう</sup>：労働センター<sup>ろうどう</sup>ができる話<sup>はなし</sup>になるけど、国障年<sup>こくしょうねん</sup>の前に色々<sup>いろいろ</sup>学習会<sup>がくしゅうかい</sup>をや<sup>や</sup>りながら、「来年<sup>らいねん</sup>、国障年<sup>こくしょうねん</sup>を立<sup>た</sup>ち上げるぞっ！」て言<sup>い</sup>い続けながら、「こんなやりま<sup>い</sup>す」って、ずーっとあっちこちに根回<sup>ねまわ</sup>しをして3月8日<sup>がつようか</sup>にサンプラザで設立総会<sup>せつりつそうかい</sup>をやったんですよ。その時<sup>とき</sup>に武藤<sup>むとう</sup>さんもおられて、その後の会議<sup>かいぎ</sup>で「小泉<sup>こいずみ</sup>さんが養護学校<sup>ようごがっこう</sup>を卒業<sup>そつぎょう</sup>してくる」と、「で、受け皿<sup>うけざら</sup>がないので何か<sup>なに</sup>したい」と言<sup>い</sup>っておられたのが武藤<sup>むとう</sup>さんなんですよ。それで、その時<sup>とき</sup>になんかするぞと。で、河野<sup>かわの</sup>さんの家<sup>いえ</sup>に枚方障害者労働センター<sup>ひらたしやうがいしやろうどう</sup>の粉石鹼<sup>こなせっけん</sup>が積<sup>つ</sup>みあがってて、豊能障害者労働センター<sup>とよのしょうがいしやろうどう</sup>っていうのができた。武藤<sup>むとう</sup>さんが立<sup>た</sup>ち上げるっていう話<sup>はなし</sup>があった時に私は「国障年<sup>こくしょうねん</sup>ささゆり」っていう国障年<sup>こくしょうねん</sup>の中<sup>なか</sup>でお昼間<sup>ひるま</sup>にするグループ<sup>グループ</sup>を作<sup>つく</sup>ってて。で、武藤<sup>むとう</sup>さんが立<sup>た</sup>ち上げたいので粉石鹼販売<sup>こなせっけんはんばい</sup>を仕事<sup>しごと</sup>にやるっていう話<sup>はなし</sup>になって、じゃあ粉石鹼<sup>こなせっけん</sup>っていうのは私たち生活者<sup>わたしたし</sup>にとっては身近<sup>みぢか</sup>な物<sup>もの</sup>なので協力<sup>きょうりよく</sup>するよって言<sup>い</sup>ってね。それで私は立<sup>た</sup>ち上げの時<sup>とき</sup>から労働センター<sup>ろうどう</sup>と関<sup>かん</sup>わるようになったの。

<sup>はまべ</sup>濱辺<sup>せま</sup>：だんだん迫<sup>せま</sup>ってきたで(笑)！

<sup>ながた</sup>永田<sup>さくらい</sup>：で、桜井<sup>ろうどう</sup>に労働センター<sup>ろうどう</sup>ができて、主<sup>おも</sup>な仕事<sup>しごと</sup>は石鹼<sup>せっけん</sup>詰めや<sup>づ</sup>って。たこ焼き販売<sup>や</sup>はもうちょっと後<sup>あと</sup>でね。

<sup>たかおか</sup>高岡<sup>あ</sup>：後<sup>あと</sup>かあ。

<sup>ながた</sup>永田<sup>むとう</sup>：武藤<sup>むとう</sup>さんが事務所<sup>じむしょ</sup>の奥<sup>おく</sup>の二畳間<sup>にじょうま</sup>に住<sup>す</sup>んで、夜<sup>よる</sup>になつて寝<sup>ね</sup>ようとしたら天井<sup>てんじょう</sup>に穴<sup>あな</sup>が空<sup>あ</sup>いてて「星<sup>ほし</sup>が見<sup>み</sup>えるよ」みた<sup>わらい</sup>いな(笑)！

<sup>ほそたに</sup>細谷<sup>や</sup>：たこ焼きは83年<sup>ねん</sup>の11月<sup>がつ</sup>にや<sup>が</sup>ってる。

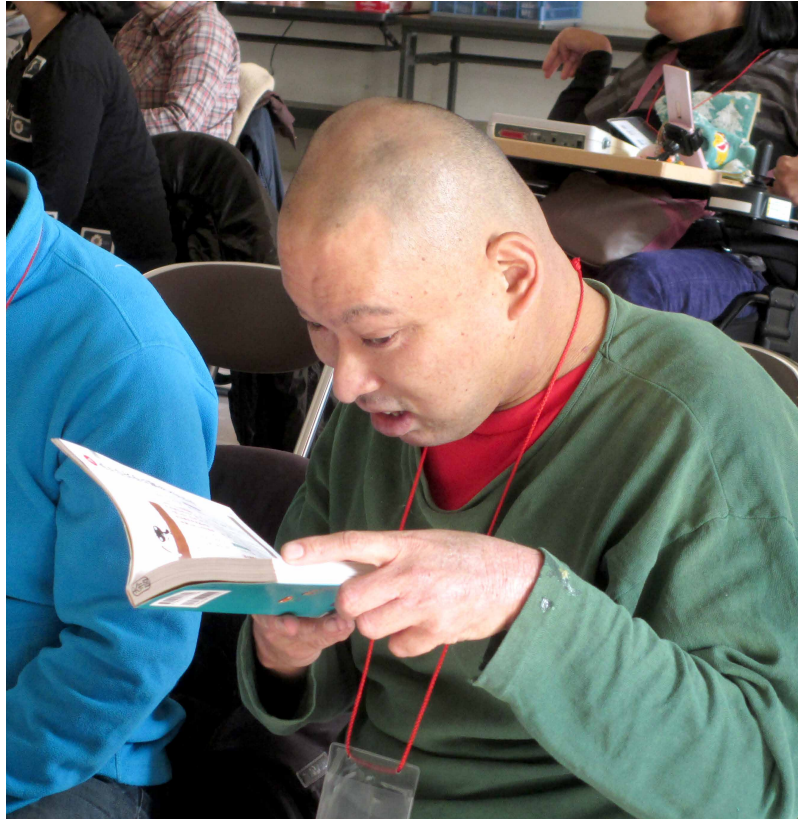
<sup>ながた</sup>永田<sup>や</sup>：たこ焼きとおでんと。毎日<sup>まいにち</sup>おでんや<sup>や</sup>ってて。





## まつうち いえせつりつ 松内くんとそよかぜの家設立

ながた 永田：で、その次に、そよかぜのいえ  
ができてきたんだけど。そよかぜの家も松内く  
ん(注 15)がだいにちゅうがっこう(以下、二中)をそつぎょう  
するんだけど「行き場がない！」っていうので、  
どうしようかってなって。で、お亡くなりになっ  
てるけど、しょうがいにかかわりあっていた二中のにしかわ  
さんっていうせんせい「労働センターに入れて」っ  
て言ってきはったんですよ。でも、なんでもか  
んでもろうどう労働センターじゃないやんと！で、まし  
てやしかわさんとうぜんきょうそひときょうそかか  
わってるんだから、違う団体立ちあげたらいい  
やん」といってそよかぜのいえができた。だから  
そよかぜの家は数年前まで歴代教組の役員が  
だいひょうつとをにしかわせんせいに  
代表を務めてきてるんですよ。西川先生は二  
中のせんせい、どようびここの  
バツ畑(店名)でしょっちゅうお酒飲んでた  
けど(笑)。でも、ずーっと歴代色んな教組の  
ひとたちだいひょうううかんれん  
が代表を受けてきて。その関連があるか  
ら、ろうどう労働センターのやってるカレンダー販売は、  
きょうそかんけいがっこうはんばいろうどう  
教組の関係で学校の販売は労働センターが手  
ださないのでそよかぜのいえがやっているとかね。いろ  
んなルールをつくりながらやってきてるんです。



まつうち 松内さん(当法人が過去に主催した交流会にて)

だいろ 大道：えーと、むとう武藤さんがそよかぜの家ができる時に「自分たちでパンを売りたい」と。それまではとよなかえーぜつと  
を仕入れて売ってたけど、仕入れではなく「自分たちで作ったパンを売っていききたい」ってなって作ったのがパンハウスで。  
で、パンをつくしょくにん  
を作る職人がいてないと。

ほそたに 細谷：パンハウスまで行ったら、そよかぜのいえのほうをもうちょっと！

ながた 永田：あのね、大道さんは知らないかもしれないけど、そよかぜの家がろうどう労働センターと一緒じゃなくどくじ  
言った時に、でもきょうそきょうそ  
言った時に、でも教組っていうのは組合だからかんたんうご  
簡単に動けないだろうってなってろうどう労働センターからわい  
Yさんっていう方がそ  
よかぜの家にしゅっこう  
出向してたの。別団体を立ち上げたほうがいいよってことでそよかぜの家になったの。そよかぜの家が  
しゅっこう  
助成をとったのは暫くしてからやね。

たかおか 高岡：そうそう。

ながた 永田：いわゆる、今は事業団にいてるまつうち松内くんがにちゅうそつぎょう  
二中を卒業して行き場がないっていうのでできたのが、そよかぜのいえ  
で、ノウハウが分からんからろうどう労働センターのYさんが出向してたの。だから、Yさんは2年ほどしてろうどう労働センターに戻  
てきたね。

## ぶらくさべつ しょうがいしゃべつ 部落差別と障害者差別

ほそたに 細谷：で、抜けてんのは解放同盟や！

はまべ 濱辺：そう、解放同盟！解放運動！部落解放同盟！

だいろ 大道：部落解放同盟。

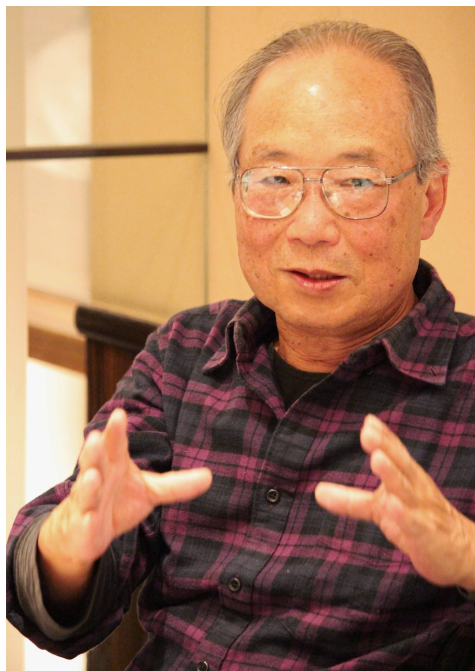
いちどう 一同：(一斉にがやがや)！

きくち 菊池：今ちょっと、話が重なって……僕がいっぱいいっぱい(笑)！

ながた 永田：あのう、松内さんって方がぶらくさいほうどうめい  
部落解放同盟のこの方なので、そのこと  
事っていうのはだんたいとしてお  
団体としては押さえとかなないと。

おの 小野：北芝支部が初めてしょうがいしゃうんどう  
障害者運動に出会ったんやね。

ちゅう まつうち まつうちあきひろ はったつちたいしょうがい みのおしみん げんざい しょうがいしゃじぎょうだんしよくいん  
(注 15) 松内くん：松内秋弘さん。発達遅滞障害のある箕面市民。現在、障害者事業団職員。



濱辺：そう、あのう、これも裏があつてね(笑)。

永田：裏ばかりやん！

濱辺：これも、なんで解放同盟が部落差別のことじゃない障害者運動まで口出してくんねって話になるやん、やっぱり。

大道：同じ解放やけどね。

濱辺：ところが、彼らはちゃんと分かってて。その部落解放運動だけでは行き詰まるやろうって分かってた。その解放同盟の中でも色々おるんやけど、やっぱり色んな差別、特に大阪ね。大阪の解放同盟は色んな差別受けてる人がいてんねと。我々だけが差別受けてるんじゃないということがあって。で、やっぱり支部としても何か取り組まなあかんと。それが、うまいことひつくんやね。だから、一翼は教組がこっちにおつたら、解放同盟がこっちにおつて、それがうまいこと引つ付いたっていう話なんです。

大道：今年ね、人権協障害者部会で、「かたりべの会」っていうので、箕面市人権啓発推進協議会の事務局長の前田功さんっていう方に話をしていたときにね、ご自身が被差別地域に生まれながら色んな人を差別しながら生きてきたけど、自分も差別する側だったことにびっくりしながら、ぐれて、今があるってことを話してくださって。一般的に言うたら「部落」つ

て言うと、被差別的な地域ですよ。そこに生まれ育った前田功さん自身が障害者をさらに下に見てきた。自分は汚いと。だけでも、さっき話に出てきた松内秋弘さんと出会って、知的障害のある方とかかわりながら、そのなかで、汚いと思ってきた人物とか理念とかを取っ払って、「松内秋弘が困ってるのをなんとかしやなあかん！」という感情が変わったと。そよかぜの家ができる発端っていうのを教えてくれはって。部落差別される側、障害者差別される側だった二つの団体によってそよかぜの家ができるってこと。松内さんが部落出身者から、進学やその先を考えると、がちっとスクラムを組まないとこれはできない。部落解放運動、障害者解放運動、そこにやっぱり学校のこととして、教職員組合、市の職員組合のスクラムがあつて。で、一枚、一口1万円の……。

小野：市民債券！

一同：市民債券。

細谷：こないだ引越しの時に出てきて。「なんやこれ？」って。

濱辺：ZEROの家(注16)までやってたやん。

大道：900万。一口1万を900口集めて、できたの

がそよかぜの家。

永田：いっぱい持ってるわ。

大道：債券っていうのは、1万円払って1万円返ってくる。だけど、恐らくなんだけど、その一口1万円払う人達は1万円が返ってくるとは期待してない人たち。

永田：そんなん思ったことないわ。

大道：見返りのない自分たちの思いっていうのを、心を集めて作ったのが、そよかぜの家だったりZEROの家。

高岡：河野さんが障害者運動に入ったのは、部落差別の人々が障害を持った人に対して差別があるって知って、「もっと下に差別がある」っていうんで入ったっていうのは聞いたことがある。それと

ちょっと繋がるのかなって。

永田：結局、そよかぜの家、たんぼぼもZEROの家も他ダダダダ〜っと、色んな物ができてきたんだけど、その一つ一つにやっぱり物語がある。

濱辺：そうそうそう！それが言いたい〜。





おの 小野：ポッとできたん違うよ～ていう。

ながた 永田：ポッと簡単にできたんちゃうよって。推進協だってそうやん。

はまべ 濱辺：流れに乗ったけどもねえ。

はまべ 濱辺：国障年が81年でしょ。それから93年に推進協でしょ。そこからは、いわゆる作業所とか事業所が出てくるわけ。

はまべ 濱辺：僕はその前段は闘う人たちをイメージしてて。

ながた 永田：闘う人たち。

はまべ 濱辺：それから作る人たち、居場所を作る人たち、育ててそれを作る人たちが出てきて。で、次に何が来るかいうたら推進協やねん。「サービスが必要な人たちにどうするか」というね。それは必然なんですよ。今、事業所や作業所の変遷を聞いてたら。

(注16) ZEROの家：「NPO法人 箕面東部自立センターZEROの家」。1995年に設立。当初は箕面市の助成を受けながら運営。2012年2月に法人格を取得し就労継続支援B型事業所になる。リサイクルショップや印刷、文具販売などを運営。[http://www.geocities.jp/npo\\_minoh\\_zero/](http://www.geocities.jp/npo_minoh_zero/)

## すいしんきょう だんたいせつりつ 推進協の団体設立

きくち 菊池：一つ、ここで分かったのは豊能障害者労働センターやそよかぜの設立の中には「この人をなんとかしないとイケない！」という思いが詰まっていたことがよく分かりました。

はそたに 細谷：「なんとかしたい」じゃなくて「障害を持っている人と出会った」ということや。その出会いの中からそよかぜの家や豊能障害者労働センターができた。

ながた 永田：結局、一人の人生として考えて、保育所か幼稚園に行ったら学校に行ったら、学校を卒業した先もあるじゃないの。生活全体のプログラムを作ろうという話になって、国障年はずいぶん前から「一人の人の生涯」を念頭に置いていた。義務教育終了後の行き場所、働く場がないということで「行き場所、働く場づくり」に一生懸命になったわけですよ。それで、労働センター、たんぽぽ、そよかぜの家、ZEROの家ができてきた。一つ一つに物語があって、養護学校卒業後の行き場所、働く場作りにずっと関わってきたんよ。その中で労働センターでは梶さんや小泉さん、Hさんの生活、主に介護の部分全てを労働センターが担っていたわけですよ。日中業務終了後に介護支援に入っていた。我々は地域での自立生活を推奨していたので、介護支援も積極的に進めていた。昼間は日中事業所職員で夜は自宅での介護支援者、日中の仕事が終わったら一緒に家に帰っていた。「今日は僕の当番だから仕事が終わるまで待っててね」と言いながら。でもそれは限界があるし、日中事業所職員と介護者が一緒というのは当事者からすると嫌だろうと。日中に喧嘩をするかもしれない。なので、その人の介護や生活は適切に保障しないと駄目だという議論になった。職員にとっても当事者にとっても限界や支障がある。「生活を考えなアカン」と考え始めたところに、武藤さんが偶然フリーターやっただけですよ(笑)！

きくち 菊池：武藤さんがパンハウスを辞めてやってきた。

ながた 永田：パンハウス勤務は2年で終わりと決めていたので、共同事務所という新大阪の事務所にいはったんですよ。牧口さん(注17)の講演の送り迎えとかをして。床に穴が開いている車で(笑)、「この車、いつか停まらへん？」ってハラハラしてた(笑)！

むとう 武藤：そんなことありましたか。

ながた 永田：ありましたよ。「車が古くて床に穴が開いている！」と武藤さんもよく嘆いてた。

むとう 武藤：そうそう、道路で停まりました。

だいち 大道：当時、武藤さんは「パンは嫌いだけど、2年間だけパンハウスでパン作るわー」と(笑)。

むとう 武藤：今は好きですよ！

だいち 大道：で、2年たつと「2年契約だから僕は辞める」と。それから、「武藤さんをどうにかせねば」と周りがあたふたして、労働センターとそよかぜとパンハウスでいろいろ考えた。で、永田さんが言ったように当時、各作業所が障害者の全てを抱え込んでいたから、生活と労働を分けなアカンというわけで、「生活をちゃんと支える事業所」としてできたのが推進協ですよ。

むとう 武藤：ちゃうよ！そんな時、俺ね、パンハウスを辞めて、することがなかったんですよ。することがないってことは金もなかった。「これは困った！」と思って河野さんに相談したんですよ。そしたら、そよかぜやパンハウス、労働センターとかが話



をして、「金を集めるから推進協を作ろう」ということになった。それが推進協の成り立ちなんよ。

一同：え～っ(笑)！

永田：それは本当なの。武藤さんの「救済対策」なん！(笑)

細谷：いよいよ、推進協の話になってきたな(笑)！

一同：ハハハハハ(笑)！

細谷：行政交渉の話で言えば、最初は市民会議でしばらくやって、それから労働センターが主体になる時があった。その時に障害者事業団を作った。それから、いつの間にか、そよかぜの家が主体になって……そよかぜを作る運動で多くの人が集まって支援したのが84～85年くらい。その中でZEROの家ができる経緯もあった。たんぼぼもそうやね。それらのグループが共同して行政交渉や相互支援等を行っていた。そして、その中で、そよかぜの家が91年にパンハウスを作ったわけ。「僕はパンが好きだ」っていうのが僕の作ったコピーやったんやけど(笑)。そうやって運動を通じていろいろなものができあがった。でも、箕面に最も足りないものがあったわけです。障害者の生活支援がそう。東京の運動は生活支援から始まったけど。

永田：自立生活運動なので。

細谷：そう、自立から始まった。東京の方が障害者の生活を重視していた。東京は金もあるからね。24時間の介護保障を訴えて勝ち取った。大阪は作業所や事業所なりの場所を作ることによって一定の成果を上げていた。日中活動の場を作るで終わってた。そして、労働センターのように夜の生活や介護も全て引き受けていた。そのことについては労働センターもあまり声を上げなかった。「やむを得ない」と思っていた。そして、箕面で今、最も足りないものは何かという話になった。その時に河野さんは武藤さんの役割を考えた。特に理念とかではないねん。「武藤さんをなんとかせねば」と。

濱辺：箕面は理念が無かったんかい(笑)！

永田：河野さんは武藤さんが新大阪にいるのが許せんかったんよ。

細谷：みんなで30万円のお金を出し合って武藤さんの活動資金にしよう。労働センターとそよかぜの家、パンハウスが10万円ずつ出し合って。それについては私と八幡さんとで、河野さんとかなり議論した。「この10万円は我々にとって必要な金。このお金には我々の夢が詰まっている。我々がまだできていないことをやるためのお金。それをやるために武藤さんが必要。つまりは24時間の介護保障等の生活を支えるための活動を推進協が担って欲しい」と。今では介護職員を自宅に派遣するという制度になっているけど、当時はそんな制度を勝ち取ることが大事だった。その当時、箕面市にはそんな制度がなかった。



(注17) 牧口さん：牧口一二さん。「NPO法人 ゆめ風基金」<http://yumekaze.in.coocan.jp/>の理事長。「障害者のイメチェン」を考えて様々な活動をしてきたが、壁は厚い！(本人談)



## 24 時間介護保障

大道：私は今、朝9時から昼1時までの4時間、さらに夜の7時30分から10時の枠で身体介護を利用している。私の娘は今19歳。娘を産みたいと思った当時は「週2回、1回2時間」の介護しか利用できなかった。私が子どもを産む時は24時間の介護が必要だったのにそれぐらいしかなかった。「お金は出せないけど重要なので頑張って」と推進協に頼んだ。私と子どもの生活を支えてくれたのが推進協。言葉で言うのは簡単だけど、一人の人間を支えるのがどれほど大変だったか。1日の中で4、5人が関わりながら私の生活を支える。私だけではなく子どもの生活まで支えるにはどれほど多くの人の支援が必要だったか。私と娘の愛子の命と生活を支える、それを形にしてくれたのが推進協だった。

永田：推進協発足当時の文書には「推進協の発足プログラムが開始しました」と書いてあるんね。豊能障害者労働センターとそよかぜの家とワークランドが応援部隊として推進協を結成したと。生活支援のコーディネート組織を立ち上げなくてはいけないの思いで。『ささゆり通信』(注18)にそう書いてあるんね。国連・障害者の十年への提案でもある。武藤さんが「重度障害者に介護者を派遣することが必要だ」と行政交渉を行ってきた中で、奥山さんが国と交渉して、名称は不確かだけど「重度身体障害者介護人派遣事業」？ができた。その制度で3人分(梶さん、小泉さん、Hさん)の介護料が出た。しかし、介護料が出るようになってでも推進協はまだ組織としては弱かった。で、私は当時、労働センターにいたけど、武藤さんから「手伝って」と言われて推進協に移ったんよ。

細谷：奥山さんが作った制度でお金が出るようになったのが93年頃かな。  
永田：行政から補助金が出るようになって、その補助金を使って人を雇おうということで、武藤さんが私と当時のスタッフの東岡さんに声をかけて。で、私は労働センターを辞めて推進協に移った。その後で阪神淡路の地震が起こったね！

細谷：行政交渉について言えば、私たちは障害者の就労や所得保障を長い間やってきた。労働センターやたんぼとかで立場が違ってても箕面市独自の作業所助成制度も勝ち取ってきたわけや。その制度も現在は廃止されたけど。しかし、行政も夢を持ってその制度を作った。その流れがあった後、93年の交渉では「24時間保障を実現するまで我々は一步も引かない」と強く訴えた。それまでも「24時間保障」とは記入していたけど、役所側も「これは書いてあるだけの見せ金で主要求は作業所補助金の増額」と捉えてた。ところが、93年には不退転の決意で「24時間保障」を要求し、「これを認めなければその先の話をしない」と主張したら行政も驚いた。行政を本気にさせたのはその時。作業所の運営も厳しかったけど推進協に夢を託して必死に訴えた。「これは見せ金ではない。すぐに実現しなくてもそのための議論をせなあかん」と。それから奥山さんの制度創設もあり少しずつ実現してきた。

永田：奥山さんが東京に何度も行って情報収集してくれた。ただ、「身体障害者等」の「等」がなかったため身体障害者しか使えなくて不自由な思いはしたけど、補助金があったので推進協の組織も少しずつ大きくなっていった。前号のファーストランの坊野さんの記事で「これまであまり労働について考えてこなかった」とも書いてあった。けど、推進協が労働をどれだけサポートできるかというより、その前提として推進協は主に生活を支援する組織だけど労働の制度についてもきちんと把握しておく必要がある。今の事業所制度について推進協の職員がどれだけ知っているかちょっと疑問やな。「生活と労働」と名乗っているから労働ではなく、「一人の人生全体の支援」ということで活動する。学校出たら働く。そのことを担っている推進協は労働の制度もさらに理解してもらわないといけない。





ほそたに すいしんきょう めいししょう さいしよ ぎろん かわの さぎょうしよ しゅちよう  
 細谷：推進協の名称についても最初はかなり議論した。河野さんは「作業所ネットワーク」でいいと主張してたけど、それ  
 ぼく いま すいしんきょう なまえ せいかつ かんが ろうどう せいかつ き はな すいしんきょう  
 を僕は今の推進協の名前にした。「生活だけでいい」とは考えなかった。労働と生活は切り離せない。それで、推進協もけっ  
 たいななが なが なまえ あたら はい しよくいん せいかつ かんが ろうどう せいかつ き はな すいしんきょう  
 たいな長い名前になった。新しく入った職員さんは「なんでこんな名前なの？」と思うかもしれないし、坊野さんが記事  
 か せいかつ ろうどう ろうどう せいかつ かんが ろうどう せいかつ き はな すいしんきょう  
 で書いたのもよく分かる。「生活と労働」なのに労働をあまり取り上げていなかったと。



ながた みのお しぎょうせい たい ろうどう じくあし お い つよ うった はたら しょうがいしゃ じゅうし  
 永田：かつては箕面市行政に対して『労働に軸足を置く』と言ったのではないかと強く訴えた。「働く障害者」を重視し  
 ているのかと。これは箕面の強み。他では「就労継続」と言いながら、「就労」という名前がつきながらどこに労働がある  
 のかわからない作業所が多い。労働者ではなく利用者ではないかと感じる場所が多い。たんぼぼが作業所ではなく  
 社会的事業所を選んだのは、作業所の「職員と利用者」という関係に疑問を感じたから。「私たちは『共に』と言ってきた  
 はずだ！」。今の総合支援法の対象ではなく、ものすごくしんどい思いをしながら社会的事業所を続けているわけですよ！  
 その根底には箕面市の障害者運動の流れがある。総合支援法に沿って就労継続Bをすればたんぼぼの運営はもっと楽にな  
 る。しかし、障害者の労働に重きを置いているから社会的事業所を続けている。それを支えたり応援したりするのが推進  
 協の役目。ところが、最近はかなり変わってきたよね。

きくち ひやあせ  
 菊池：えっ……(冷汗)！

いちどう わらい  
 一同：ハハハハハ(笑)！

はまべ きょう すいしんきょう ば わらい  
 濱辺：今日はそういう(推進協につっこむ)場じゃないねん(笑)！

だいどう わたしじん ろうどう かんが せいかつ かんが おも たかだひろし ちゅう  
 大道：私自身は、「労働のことは考えず、まずは生活だけ考えればいい」と思っている。たとえば高田浩志さん(注19)。  
 事業団に勤務して職場内では支える体制ができています。でも、体調不良で自宅で休むとなると誰が介助に入るのか。そういつ  
 きんきゅうじ かいごたいせい かくほ かだい きんきゅうじ たよ かぞく げんじつ りわん  
 た緊急時の介護体制確保が課題になっている。「緊急時に頼れるのは家族しかない」という現実もある。なので、理念で



ちゅう (注 18) ささゆり 通信: 国庫年の通信。

ちゅう (注 19) 高田浩志さん: 一般財団法人 箕面市障害者事業団で現職。重度障害のある箕面市民。『事業団だより』の中で『Viewpoint』を長年にわたり連載中。事業団の公式サイト内で閲覧可。 <http://www.minoh-loop.net/>

言えは労働と生活両方に軸足を置いて欲しいと思うけど、推進協がその人の生活を一緒に考えるだけで、実は労働も考えることに繋がっているんじゃないかなと。

一同: う〜ん……。

高岡: 経済的な自立も大事だが、それ以前に生きていかななくてはならない。

小野: 24 時間介護保障のベースはそこやね。

細谷: でもね、違う観点から言うと、行政の言う「障害者」と我々のようなややこしい集団が言う「障害者」は全く別物。我々が言うのは「企業が拒む障害者」。働く権利も働く義務も日本国憲法には書いてあるやんか! それなのに障害者は除外

されてる(怒)! かつての学校教育と同じように「あなたは来なくていい」とされてる。そういった方々が僕たちの友達の障害者。行政が言う障害者はどうも「働ける障害者」やねん。

大道: 「上手いことできる障害者」やね。

永田: 箕面市の障害者事業所の制度っていうのは対象は「職業的重度障害者」なんです。一般企業では働けない障害者

が雇用されている。それで「最低賃金をクリアする収益を上げろ!」と言われているわけ。ものすごく矛盾している。だけど、障害者にすれば「労働に軸足を置く」ということで大切な制度。この制度があって「障害者も労働者だ」という旗印を掲

げて我々も続けることができています。それでも、職業的重度障害者の仕事保障にはいろいろ難しい面があるよね。皆がどう考えてるかね。

細谷: 大道さんが言うように、推進協は生活を一番に考えてもらわなければ困る。生活を考える時に根底にあったのは「学ぶことも働くことも生きることも拒否されている障害者」の問題。そんな障害者も箕面市民として普通に暮らせて当た

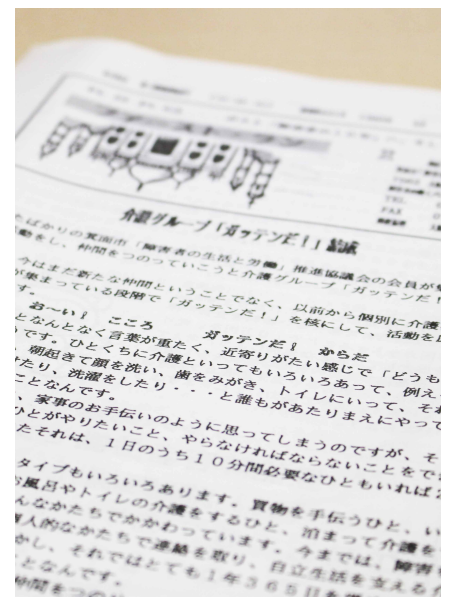
り前ではないかと。このような理念を武藤さんが中心にいた推進協が広めていった。だからこそ、市民会議が担っていた役割を推進協に委ねた。市民会議の根本理念を引き継いだのが推進協。

大道: 大きいよねえ。

細谷: 武藤さんは「そんなこと知らん!」って今は逃げてるけど(笑)。武藤さんも当時、我々や役所の人たちにそのことを強く訴えた。それが推進協の始まりや。

永田: だから、今でも推進協が対市交渉の中心にいます! それを理解してる職員がどれだけいるか(笑)。

高岡: 私ね、当時の 24 時間保障は「すばらしい!」と思って。これは将来、事業所になってお金儲けもできるのではと一瞬思ったんだけど……、運営は中々しんどそうだね。



推進協がまだ任意団体だった頃の介護グループ「ガッテンだ!」。参加していた高岡さんが当時の資料を持参してくださった。

資料にも『ファースト・ラン』2号(1993年5月発行)にも共通して書かれているキャッチコピー(?)は

「おーい! ころろ ガッテンだ! からだ」。

えいち はなし  
Hさんの話

ながた おの でばん すく  
永田：小野さんの出番が少なすぎたね。  
おの ぼく  
小野：まだ(僕のいるとこに)行って  
へんもん。1 個だけいえるのは、この  
ねんびょう  
年表(あゆみ)は1982年から始まって  
るでしょ？81年までは「ホームヘル  
パー」というのはせいこつ ほ こせたい  
けが対象やったんです。家庭奉仕員。  
ねん いっぱん かねてい ひろ  
82年からそれを一般家庭にも広げたん  
です。で、そこから推進協設立が93  
ねん  
年で、2003年の支援費まで、この20  
ねんかん  
年間。これがたぶん介護保障の20年。  
それこそ、この人ら(座談会参加メン  
バー)が毎年交渉して、ちょっとずつ  
ちょっとずつ24時間に近づけていった。  
ほんまちょっとずつ。1時間とか2  
じかん  
時間とかね。その積み重ねだったんで  
す。で、推進協ができて、支援費までいっ

たら、ある程度24時間保障が、介護保障が具体的に増えてきたんじゃないですかね。それでもまだ十分じゃないですが。

濱辺：つなぎ1時間2時間言うてたもんね。

小野：ですね。なんとか、隙間をあけつつ、24時間なんとかつながるような取り組みが支援費まで積み上げられた。でも、  
くに ざいせいてき しえんひ  
国の財政的には支援費はちょっといき過ぎたんで、また反動があったんやけども。たぶんこの最初の10年と次の10年、  
すいしんきょう  
で推進協ができてからはだいぶ違うようになったのは確かです。推進協ができるまでの10年は、ほんまに綱渡りでしたから。

たぶん、Hくんがこの時に登場するのかな？その時に僕らは、介護調整とか介護者集めとかを必死でやっとなんてですね。

永田：小野さんはHさんの介護にも入ってくれてはったんです。

濱辺：変な人やろ(笑)！

大道：時給もないのに、泊りとかつなぎとか。

小野：制度の話をしてるのに(笑)！これはさっきの話、1日2時間とかそんな時代。「あとの22時間どうやって埋めんの？」つ

て話。だから、障害者が必死になって介護者を集めとってんね。そのモデルがたぶん入部さんですよ。

濱辺：入部さんの説明わかってる？

永田：入部香代子(注20)さんね。

菊池：お名前は知ってるんですけどね。

細谷：座談会が終わったら、後はウィキペディアで調べたらね(笑)。

小野：当時の自立支援の介護者というのは、どうやって介護調整するかだったんですね。穴が開く。これを誰が埋めるって

いうのを、みんなこうやって集まって、「う～ん」って悩んで、「俺行くわ～」とかやっとなんてね。

大道：いち職員として、自分たちの推進協ができるプロセスをいろんな人たちが担ってきた、という歴史を知ってほしい。

小野：僕は推進協に全然関わってきてないですよ。

大道：小野さんは推進協じゃなくて、箕面に関わってきてますよね。

小野：Hにしか関わってきてへん。

菊池：Hさんはどういう方なんですか？

永田：豊能障害者労働センターの元事務局長で、脳性麻痺で、箕面市のいわゆる車椅子住宅にも入っておられて。

小野：ささゆり園の自動ドアを3回ぐらい壊してん(笑)！

細谷：ちなみにね、彼が箕面に来たのは、茨木の養護学校を卒業して「わらしべ園」にいてはったんですよ。小泉さんが

同級生やってん。今、「支援学校」と呼んでるけど。茨木養護学校の。ほんでな、濱辺さんがその頃勤めとった所に車を停めて、

毎日曜日に労働センター創成期にな、カンパ活動やっとなんて。カンパ活動やる中で……この人らひどいよ。「カンパに

はもうちょっとインパクトあったほうがいいな」て思ったんやろな。「誰かいてへんか？」って言ったら小泉くんが「いてる。」





言うて、Hくんいう人を引っ張ってきてん。  
 濱辺：カンパ活動やっと出てきたな。  
 細谷：そうそう、それは置いていて。引っ張ってきたために、引っ張ってこられた以上「俺のことどうしてくれんねん」と思ってるわな、Hも。それで、24時間介護保障の必要のある人の自立生活を箕面で初めてやってん。僕も犠牲になつてん(笑)！  
 永田：対市交渉で行政職員の机をバーンと叩いたりしてたのは、Hさん。  
 小野：一番過激やってんね。  
 永田：小泉さんも梶さんも机を叩くようなタイプではない。Hさんがガーっ！て

車椅子を前に寄せて夜中の1時や2時にガーン！と叩いてた。私たちの対市交渉は夜中の1時2時までやってん。  
 小野：介護者を集めなアカんから、例えば今の阪大、大阪外大の文化祭にHくん連れられて一緒に行くねん。チラシまくねん。ダーってまいて、女の子ゲットするねん。女の子ゲットしたら、あとから男がついてくるねん(笑)！  
 高岡：そうやった(笑)！  
 永田：Hさんの基本的な介護仲間はいっぱいいただけど、やっぱり間が空く時があんねん。それを推進協が埋めてて。私も行ってたし。  
 高岡：私も入りました。つなぎでね。

(注 20) 入部香代子さん：「青い芝」などで活動。1991 年 4 月「全国初の車いす女性市議会議員」として当選してから 4 期 16 年、豊中市議会議員をつとめたことでも知られている。2013 年に永眠。

## しょうがいしゃ すいしんきょう 障害者がいるから推進協がある

大道：20 数年前に立ち上げから関わってきて、私自身も右手右足がない障害者で、私も今の生活は健全者に支えてもらってるけど、支えてもらってる私も、実は障害者を介助していた時代があるんです。そのことは推進協にちゃんと知ってほしいなと思っていて。24 時間介護が必要やったHさんの夕方仕事から帰ってきて泊まりの人が来るまでの間の時間、つなぎの時間に私がいて、「タバコ吸いたいから火つけてくれ」「お酒飲みたいからお酒ついでくれ」っていう、障害者が障害者をサポートする。

高岡：でもそれは豊能障害者労働センターでもやってましたよね？みんなで支えてるからね。

大道：制度化されることでそのことは排除されるんだけど、でも人として生きる中で障害があるとかないとかは別にして、「できる誰かができない誰かを担う。できないと言われながらもできることを担う」ってことを形作るのが、推進協がやってきた歴史の根源かな？と私は思っています。

永田：推進協に限らずね、箕面の障害者運動っていうのは、労働センターだろうがどこだろうが「何かが足りない」ということを市民がサポートした。今、推進協はグループホームを普通にされてますけれど、グループホームの元々の発端っていうのは「のび」なり、いわゆる「障害者の生活を考える会」みたいなものがあるって、そこでいろんなシュミレーションをしながら、それこそカンパ活動もしながら、それを形としたのが推進協なんで、推進協がポンと作ったわけではない。



高岡：グループホームは自立という面も含めて「生活を支える部分がなんでないねん？」っていうところで、国際障害者年鑑面市民会議の「のび」のグループの面々が「おかしいやないか」と。「グループホームを作ってほしい」と。それでそこから始まって動いたのよね。

永田：元々はね、自立生活というのをずっと追いかけてきてたから、小泉さんだって元々は自宅から来ていたわけだし、梶さんだって自宅から来てた。それを全部自立生活に結び付けてきた。誰がっていうのは、みんなでやってきたわけだからね。その延長で生活を考えるというグループができて、そこでいろんな検討会をやりながら「グループホームというものもあるんじゃないの？」と。「一人で生活するのがいい」という人もいるけど、「グループでならできる」という人もいるよねっていう話の中で、推進協はそれを担う形。その会議にもずっと武藤さんも来てはって、推進協ができる前からそのグループはあったのよ。

大道：私、推進協に対しての思い入れって強いものがあるんだけど。特に、今日話をしてくださった歴史を知らない人たちが増えている中で、推進協の利用者として、とにかくお願いしたいことは……。



濱辺：利用者ちやうで、理事やで。

高岡：利用者でもあるけど、理事でもある。

大道：社会的な、無意識的な立場の中で、利用者。提供する側、利用する側っていう、無意識の意識っていうのは、常に人の中で働く中で、私は利用者であります。無意識的に働く下で、私も誰かを支えることができる。私自身が介護者になれる。その自分は誰に支えられている？と思うと、自分ひとりでは生きていけない。すべて誰かに支えられてしか生きていけないし、なおかつ、私ですらも誰かを支えていることがある。私が伝えたいのは、「上にならんでもいい、下にならんでもええ。共にでかまへん」というのをとにかく推進協に知ってほしい。サービスを提供してあげてるでもなく、してもらってるでもなく、与えてるでもなく。言葉は悪いけど、ここにいる推進協の給料は誰が出してるの？「障害者が共に生きる



はたら 働く」ということを支えている人たち、その人たちが払ってるよね？「障害者がいなければ推進協は成り立たない。決して、誰かが負い目を受けるわけでもなく、それが私たちの望む世界である」ということを確認したいなと思ってます。

武藤：障害者がいるから推進協があるんですよ。

大道：そうですね。

高岡：でも、簡単に言うに「世の中は何でも持ちつ持たれつ」。なんでもね。

大道：そう！その一言に尽きるんですよ。「お互い様」ってね。

菊池：一人では絶対生きられない。障害者とか健康者とか関係なく、やっぱり誰かと関わりながらじゃないと人は生きられない。そういうことかなと。

## ゆめ 夢をつないでいってる人たち

細谷：少し違うこと言ったら怒られるけど、僕、大道さんの話な、推進協ができる前。無償介護やったら、例えば「東京の落語聞きに行きたい」とか言ったら、障害者運動の介護に来るやつは大学生でさ、頭の中、障害者運動の理念しか持ってへんから「落語がなんだ！そんなもの行かんでもええ！」と言われてな。

大道：タバコもそうよ、今は。

細谷：大道さんは言いはったけど、「有償介護でないとダメ」ってはっきり言ってん。立派なことやん。だからいいねんて、今の話が。やっぱりちゃんと対価を払って、「私は好きな所へ行きたい」てあたりまえのことを言うたんよ、介護者に。なんらかの形で自分が出すか誰が出すかは別にしてさ、「ちゃんと有償であるべきや、有償介護を実現しなアカん」ってあなと言うたやん。それが色々あって、みんなの苦労の中できたやん。その中で、今あなたが言ってるのは、それはまた違う意味で正しいわけやん。僕も推進協にはすごい思いがあんねん。たぶん、永田よう子さんもものすごい思いあると思うわ。もう「夢をかける」言うかな、(声をひそめて)ほんまに言うとかけどな、あの頃、労働センター 10 万って大変や。もうむちゃむちゃ貧乏。もう話なれへんけどね、「絶対出す」言うてん。みんなですごい話し合ったよ。これはな、H さんとか小泉さんが労働センターを離れても、市民として絶対必要やねん。

大道：そよかぜの家も 10 万、ワークランドも 10 万。それはもう……。

細谷：みんなすごい思い持ってな。その思いって何かっていえばね。これは意見ではないけどね。推進協はなにも、介護派遣事業団体ではないねん。僕今でも推進協にものすごい思い持ってます。だから推進協の人に「労働センターとか色んなところでやることにも関心持ってきてくれへんか？」ってね。その代わりに、推進協がやることにもちゃんとみんなで参加する。最初の頃はお金もなかったし、制度もなかったけど、ものすごい思いを持ち合っとな。「両思い」だったの、ちゃんと。障害者の生活をちゃんと支えるには、このネットワークがみんな力で合わせなアカンいうことを初代の人たちは知ってるわけよ。労働センターとそよかぜとパンハウスが 10 万ずつ出してる。それは河野さんの強引な力やろうけど。それでも、労働センターにとっても痛い 10 万やったけどな。そやけど、飲み食いの 10 万とは違うわけよ。もう、ものすごい夢を持つわけよ。なんですか言うとか、やっぱりひとつの集団がなんか運動をやるときは、未来永劫その運動が広まると思って普通はできひんよ。すぐに壁にぶつかるから。だから可能性の限界みたいなのがあんなねん。働くということでやってる限りはな、生活のほうにはどうしても行かへんわけよ。そやから、むっちゃむちゃ夢を持ってやとったわけよ。それがその 10 万やってん。

菊池：う～ん。

細谷：そのことの元になってる働く場はどうかって。働く場はガタガタやで。今の現実！今、国際的に見ても日本の障害者の労働なんて全く保障されてへん。全く変わってないねん！どちらかといえば。生活を支えるのは進んでるように見えるけどな、本当は進んでないって。でも、「進んでないことはいけなことはない」ねん。夢をちゃんと持てるわけやんか。だから推進協というのは半分は僕らの夢でできてる。さっき言った市民会議から引き継いだ、障害者市民の「一人の人間の人生を輪切りにするな」とかさ。その人がいつの間にか箕面からいなくなっちゃったとか、僕らいっぱい経験してんねん。労働センターにいた重度障害じゃない人や事業団でバリバリやってる障害者が、「あ、なんでいてないの？」言うたら、「いやちょっと北摂の療養施設入った」とか、そういう目になんべんも遭ってるわけやんか。そんなことがないようにって思いがな、僕らみんなにあるわけよ。だから、例えば労働センターでやとった人がうまくいかんからたんぼ行ったとか、そんな形でいいわけよ。どこかがその受け皿になって、その上で最後に出てくるのが推進協やねん。ほんまに市民生活をちゃんとするって、全く実現できてない言うてもええねんよ。だから一番身近にいるのが推進協やねん。それは持つといてもらいたいねん。派遣事業ということで物事を考えるのではなくて。

きくち  
菊池：……。

細谷：ひとつだけ、武藤さんのことと言うたらあんまりよくないけどな。こういう運動というのは、必ず制度の中だけで済むんやったら運動とちゃうのよ。それをはみ出すことがあるねん。あの時、武藤くんがこう言いよったよ。もう亡くなったけど、若竹さん(注 21)の時にさ。あの時にはまだ制度的に実現してへんかってん、二人介護が。それで武藤さん「制度がなくても推進協でします」って、言いよってん。

細谷：風呂介護とかな、二人介護を実現せえへんかったら、若竹さんの生活が実現せえへんいうのがあったんや。

(注 21) 若竹さん：若竹育子さん。筋ジストロフィーの重度障害者。2006 年～2011 年に当法人の理事長を務めていた。2015 年に永眠。<https://www.facebook.com/ikuko.wakatake>

大道：そういえば近年、障害者が生きにくいと思うのは、いうたら一言なんですよ。「責任の所在」。誰が責任を負うねん！ということ。問い詰めてきた部分と同じく、自分たちに返ってきていて、推進協は何かをやりたいと思う中で、問いただしてきたことと同じぐらいの誰が責任を負うねん！ということをしごい問われてる。たぶん事業所も B 型も。

細谷：僕、労働センターを一番愛してることは愛してるけど……それはそこにおったからしょうがないけど……推進協もいまだにその時のことと同じように……推進協はやっぱり箕面の夢ですよ。

濱辺：それ言われたらしんどいやん。

細谷：しんどいかもしれんけど、言うときけど。推進協っていうのは、ほんまにスタッフのあなたたちもわかると思うけど、全国、特に大阪で見たら、燦然と輝く存在やで。間違いなくね。だからこそね、それを重荷に感じるのではなくて、「自分たちは夢をつないでいってる人たちや」っていうのをね、誇りを持っていたきたいんです。



## ● 第一部 あとがき

座談会中、参加メンバー皆さんの熱い想いに、僕らスタッフは圧倒されっ放しでした。後半は、特にお酒もたくさん入って、熱気上昇しています(笑)。1981 年に国際障害者年箕面市民会議が設立してから、箕面での障害者運動が一気に高まり、制度も保障も何もなしの中で市民が一丸となって障害者の生活や働く場を勝ち取っていった歴史。そんなに遠い昔の話ではないのに、制度ができた時代しか知らないスタッフからすると、なんだか遠い昔の夢のような話に思えてしまいます。しかし、それは夢ではなく、ちゃんと今に至るまでの歴史なのです。さて、次号では第二部「措置制度～支援費制度～現在」へと時代は流れていきます。参加メンバーも変わり、当法人の設立時から制度ができてから現在までの話になります。お楽しみに！

進行／菊池康治

編集・レイアウト／菊池康治・坊野一乗

撮影／坊野一乗・大野永美子

記録／小山加代・坊野一乗・大野永美子・福永英司

書き起こし／菊池康治・小山加代・坊野一乗・大野永美子・福永英司



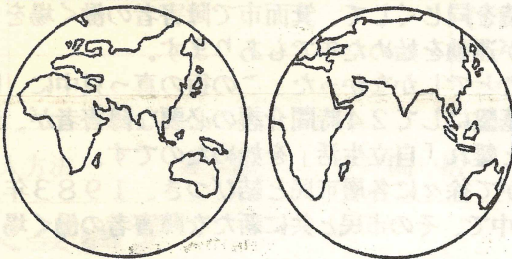
とくべつしゅうろく  
●特別収録『ファースト・ラン』1号(1)

2017 年、ついに 100 号を迎えた本紙の振り返りとして 1993 年 3 月 8 日発行の『ファースト・ラン』1 号を特別収録します。今号特集の座談会でも語られていた頃の空気が感じとれます。当時は B 5 サイズで今よりも小さな冊子でした。

KSKQ 第三種郵便物認可 (ファースト・ラン1) 通巻第379号 1993年 3月 8日(1)

**KSKQ ポスト「障害者の10年」へ、そして未来へ!**

**ファースト・ラン 1** 編集



箕面市「障害者の生活と労働」推進協議会

〒562大阪府箕面市箕面4-2-16

障害者の働くバンハウスワークランド気付

TEL 0727-23-4826

FAX 0727-23-5187

郵便振替 大坂9-116066

**箕面市「障害者の生活と労働」推進協議会 正式結成!**

昨年からポスト「障害者の10年」に向け準備を続けてきた箕面市「障害者の生活と労働」推進協議会が1993年2月1日ようやく正式結成しました。推進協を構成する各団体・個人がそれぞれに問題を山積させているわけですから活動内容については様々な意見が出たのですが、やはりこの10年で殆んど進んでいない自立障害者への介護保障、新たに自立しようとしている人たちの応援体制づくりを中心に取り組んでいくことになりました。財政については会費で運営していくのですが、各団体ともギリギリの状況で会費を捻出しており、当然行政施策の立ち遅れが推進協の設立を余儀無くしたわけですから推進協自体が一刻も早く公的助成金を獲得する方向で進み、又、行政の持つ福祉システムを点検し、公的介護保障の考え方、有り様を双方で確認する形で市と折衝していこうと考えています。

**このゆびとまれ**

○ 私たちの運動はある意味で障害者市民・老市民にとって夢のような○  
 ○ 或いは無謀な行為に思えるかも知れません。箕面市が「ライフプラザ○  
 ○ 計画」「福祉公社」など数百億円という巨額の予算をかけても見栄え○  
 ○ の良い「器」しか作れない時代に、誰もが「あたりまえ」に暮らせる○  
 ○ 街づくりをしようというのですから。しかし、本当に不十分であるこ○  
 ○ とは認識した上で、多くの市民とスクラムを組んだ運動は何も無かつ○  
 ○ たこの街に事実として障害者の働く場を作り、そして、さらに増やそ○  
 ○ うとしているのです。一人でも多くの市民がスクラムに加われば夢は○  
 ○ 現実となり、無謀な行為はあたりまえの行動になっていくのです。ぜ○  
 ○ ひとも私たちと共に夢をむさぼり、この街を変えていく仲間になって○  
 ○ いただけるよう心からお願いいたします。 ○

一九九二年九月二日 第三種郵便物認可 毎二画(二・四・六・八の日)発行



とくべつしゅうろく  
 ●特別収録『ファースト・ラン』1号(2)

ひょうし うら だんたいけつせい しゅいしよ かいいん かにゅうもうしこみしよ いったい ひろ おうえん よ  
 表紙の裏は団体結成の趣意書になっていました。会員の加入申込書が一体になっており、広く応援を呼びかけていました。  
 ほんし ざだんかい かた こくしょうねんみのおしもんかいぎ ぼうとう の  
 本紙の座談会でも語られていた国障年箕面市民会議についても冒頭で述べられています。

KSKQ 第三種郵便物認可

(ファースト・ラン1)

通巻第379号

1993年

3月

8日

(2)

### 趣意書

1981年は国際障害者年であり、時を同じくして、箕面市で障害者の働く場を作ろうと障害者市民を軸とした、私たち市民が運動を始めた年でもあります。

障害者が働くことなど、「特別」なことではなかった、この街の真っ只中に、障害者の働く事業所をつくり、そしてそこを基盤にして24時間介護の必要な障害者が、健全者には要求されない「決意」をし、家族と離れ「自立生活」を始めたのです。

点として生まれた小さな運動は、やがて徐々に各層市民と結びつき、1983年から始まった国連「障害者の10年」の時間の中で、その市民と共に新たな障害者の働く場を作っていたのです。

そして、多くの市民の力は、座して動かなかった箕面市行政をも揺らし、1990年に全国で初めて、障害者を雇用するための団体「財団法人・箕面市障害者事業団」を設立するに至ったのです。

これは「市」という行政にとっては末端単位のことであり、しかも多くの問題を残してはいますが、行政が障害者の労働を、「生きがい対策」としての「授産」から「賃労働」としての「労働」へと、意識はともかく、具体的な形として転換したという面で、私たちの運動は大きく前進したと言えるでしょう。

しかしながら、私たちの運動がいかに全力疾走してきたとは言え、たかが10年程度の積み上げだけで、歴史という時の長さが蓄積させ、多くの人々を踏みつぶしてきた「差別」を霧散させることなど到底できないのです。

確かに、この10年で事業所や作業所ができ数も増えました。が、そのどれを見ても、未だに障害者の生活を支えるだけの賃金をつくり出せてはおらず、全体の賃金を抑えることで維持しているのが現状です。

又、この10年の間に介護を必要とする者で、家族から独立し「自立生活」を始めた障害者は極めて少ないし、「自立生活」を続けている人たちの介護体制は、いつ崩壊しても不思議ではない状態にあるのです。

たった一人の障害者が差別とあらがう「決意」をもってしても、「自立生活」を始められない。この悲しい現実を。「普通」という言葉で歪められてしまった「あたりまえ」をもう一度認識し、確認しなければなりません。

そのことが、ポスト「障害者の10年」に向けて、私たち市民が動きだす道しるべとなるのですから。「あたりまえ」を取り戻し、障害者が、或いは全ての人が「決意」などなくとも、ひととして暮らせる未来を具現し、具体にするため、私たちは新たな提案をします。それが箕面市「障害者の生活と労働」推進協議会なのです。

私たちには人的にも資金的にも全く余裕などありません。しかし、だからこそ今、着手しなければならないのです。たとえ、それが血のにじむような資金で運営しなければならぬとわかっていても……。

多くの仲間と、そして、これから出会うだろう仲間と共に現在を変え、未来を創造するために、私たち市民のファースト・ランを！！！！



# カエルのうた

## 其の 14 ～思い出の人



思い出の中に強烈に残っている障害者が何人かいる。何年も前に亡くなられたのだが、親しかったので頻繁に思い出す。

Kさんは作業所の運営をされていた。ある時大阪でイベントがあった時にお会いした。にこやかに私に向かって帽子をとり、挨拶をしてくれた。帽子をとればすぐに自分と分かると思われたのだろう、サプライズのように私の前で帽子を取りニコツとした。人の顔を覚えるのが苦手な私は、申し訳ないが「誰なんだこの人」と思ってしまった。私の態度でそうと分かったのだろう、Kですと名乗ってくれた。名前を聞いてハッと思い出した。なんでも忘れてしまう私だが、その時のことは覚えている。

Iさんは豪快な人だった。その人の講演会があったので、運転手として付いて行ったことがある。その人は前日にかなりのお酒を飲んだらしく、車の中で爆睡している。これから講演会が待っているとは思えない。2時間ほどの道中ずっと寝ているから「大丈夫かな?」と思っていたが、着くとしゃきとして喋っている。しゃきとと言ってもIさんは少し言語障害があるので、私には二日酔いなのか言語障害なのか分からなかった。何度か一緒に飲んだことがある私が分からないのだから、前の晩に大酒を飲んだなんて誰も気づかなかっただろうな。Nさんは車の運転が出来るので、一度助手席に乗せてもらったことがある。その人の障害の特性なんだろう。頻繁に首を左右に振りながら運転をする。横で見ていると前を見ているのかどうか分からない。おまけに「くわえタバコ」だから心配でしょうがない。いつタバコがこっちに飛んで来るか分からない。Nさんには言わなかったが、2度と乗せてもらうことはないだろうと思っていた。

Pさんは大酒飲みで、ある年のお正月休みに何日か一緒に飲み続けたことがある。その人はかなりの言語障害があり、私には95%聞き取れないと言っても決して過言でないくらいだった。ところが不思議なことに、酔いが回るとなんとなく聞き取れるようになってきた。多分酒のせいである種の緊張が取れ、リラックスして聞けたからかも知れない。ある日Pさんから私の職場に電話がかかってきたことがある。しかし、その内容はさっぱり分からなかった。電話を代わってもらってPさんの職場の同僚に聞いたら、Pさんは私に「豚一匹なんぼ(いくら)ですか?」と質問していたらしい。何故私にそんな質問をしてきたのかは忘れたが(聞いていないかも)、意味の分かる内容でも聞き取れないのに、意味の分からない言葉が聞き取れるはずがない。Pさんは私に「豚一匹なんぼですか?」が聞き取れると思ったんだろうか。  
(武藤 芳和)

ついとう  
追悼  
う え だ ま い  
上田舞さんへ

すいしんきょう り じ う え だ ま い ねん がつ じゅうよっか な ころ めいふく いの  
推進協の理事、上田 舞さんが、2016 年 10 月 14 日お亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

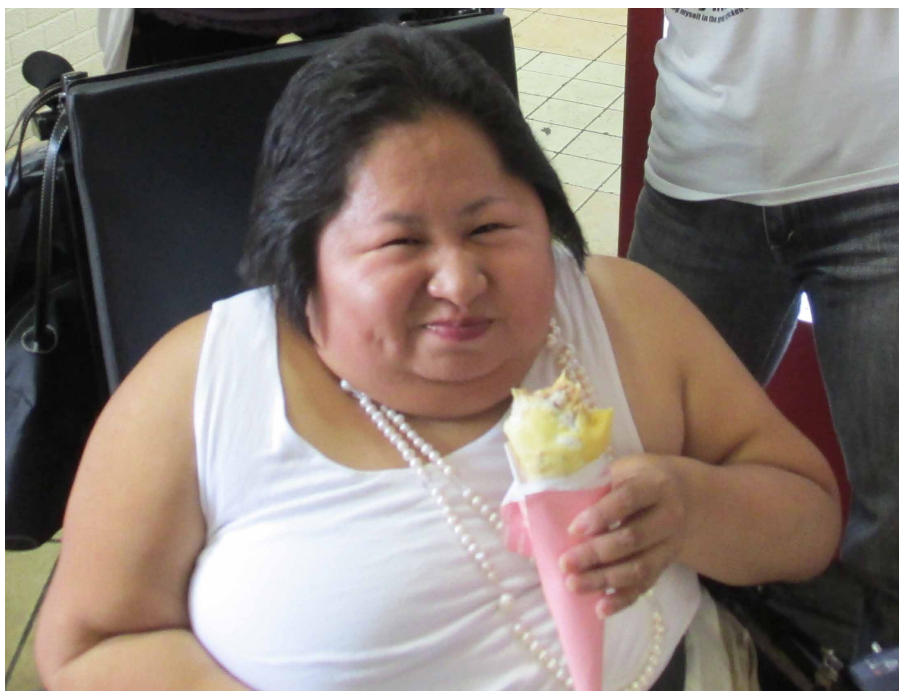
う え だ さんには いぜん、すいしんきょう ライフタイムミントのピアカウンセラーとして相談支援事業に加わっていただき、  
しょうがいしゃ である自分が人生の中で楽しかったこと、苦しかったことなどの実体験を根拠に、相談に来られた方達と  
真剣に向き合い、より良い生活を構築するための方向性を導き出しておられました。その頃はピアカウンセリング  
という概念が生まれたばかりの時期だったので、すべてが手探りの状態であった中、体当たり的に相談者に対する  
姿勢は、少なからず推進協のあるべき姿に影響を与えてくれました。

こ が ら からだ 小柄な体のどこにそんなパワーがあるのかと思わせる動きは、私を常に驚かせてくれたのです。大きな電動 車  
い す の いどう すがた でんどうくるま しょうしんしゃ わたし ま イスに乗り移動する姿は、電動車イス初心者の私に「負けるな!」とハッパをかけてくれているようでした。中途  
しょうがい わたし う え だ さん しょうしん ころし じんせい せんぱい 障害の私にとって上田さんの存在は、公私ともに人生の先輩としての存在だったのです。  
すうねんご じもと いけだし ほけんじぎょうしょ 「ライフサポートネットワークいけだ」を立ち上げ、代表として多く  
なかま かつどう う え だ さん しょうしん ぶん や と さいぎょう さまざまな他分野  
へも拡がりを見せました。

それとほぼ同時期に推進協の理事としても加わっていただき、貴重な意見や提案を示していただいたのです。自  
らいひよう つと じぎょうしょ うんえい にな すいしんきょう り じ う え だ かつどう と かくだい  
らが代表を務める事業所の運営を担いながら、推進協の理事を始めとする上田さんの活動は止まることなく拡大し  
ていきました。

う え だ さん自身は感じなかったのかもしれませんが、疲れていたのだと思います。休むことをしなかったから。も  
じゅうぶん おも あと とも あゆ なかま ゆだ やす ほんとう  
う十分だと思います。後のことは共に歩んできた仲間たちに委ねてお休みください。本当にありがとうございました。

り じ ちょう む どう よしかず  
理事長 武藤芳和



2013 年、当法人の資格講座にて講師をつとめてくださった時の上田さん



へんしゅうこうき  
編集後記

## ～こんなメンバーであんじょうやりました～

・今年<sup>ことし</sup>は、今まで<sup>いま</sup>面倒<sup>めんどう</sup>くさがってしなかった事<sup>こと</sup>にチャレンジしようと思<sup>おも</sup>っています。まずは  
体<sup>からだ</sup>を鍛<sup>きた</sup>えるために週一回<sup>しゅういっかい</sup>のジムトレーニング。やった翌朝<sup>よくあさ</sup>に強烈<sup>きょうれつ</sup>な筋肉痛<sup>きんにくつう</sup>になり、三日間<sup>みっかかん</sup>腕<sup>うで</sup>  
が上<sup>あ</sup>がりませんでした(T\_T) 継続<sup>けいぞく</sup>は力<sup>ちから</sup>なり。頑張<sup>がんば</sup>って続<sup>つづ</sup>け、体重<sup>たいじゅう</sup>を減<sup>へ</sup>らします！  
(職員<sup>しょくいん</sup>K)

・来月<sup>らいげつ</sup>は娘<sup>むすめ</sup>の卒業式<sup>そつぎょうしき</sup>。三年前<sup>さんねんまえ</sup>の今頃<sup>いまごろ</sup>は行きたいと思<sup>おも</sup>っていた高校<sup>こうこう</sup>に合格<sup>こうかく</sup>し制服<sup>せいふく</sup>を買<sup>か</sup>いに行<sup>い</sup>っ  
た時<sup>とき</sup>も嬉<sup>うれ</sup>しそうに試着<sup>しちやく</sup>してたなあ。と……懐<sup>なつ</sup>かしく思<sup>おも</sup>う反面<sup>はんめん</sup>、母<sup>はは</sup>のワタシは三年経<sup>さんねん</sup>って老眼<sup>ろうがん</sup>  
が進<sup>すす</sup>み、携<sup>けい</sup>帯<sup>たい</sup>を持<sup>も</sup>つ手<sup>て</sup>もだんだん遠<sup>とお</sup>くなり……あちこち老朽化<sup>ろうきゅうか</sup>してきております(～～;)   
(職員<sup>しょくいん</sup>K、K)

・100 号記念<sup>こうきねん</sup>に誌面<sup>しめん</sup>をおおはば  
協<sup>きょうり</sup>力<sup>りょく</sup>いただいて時間<sup>じかん</sup>の許<sup>ゆる</sup>す限<sup>かぎ</sup>りこだわった結果<sup>けっか</sup>、手<sup>て</sup>作<sup>づく</sup>り感<sup>かん</sup>を残<sup>のこ</sup>しつつもオシャンティーな  
仕上<sup>しあ</sup>がりになったのではないかと！昨年鑑賞<sup>さくねんかんしょう</sup>した『シン・ゴジラ』があまりにも良<sup>よ</sup>かった  
ので1万円もする設定資料集<sup>まんえん</sup> (図鑑並<sup>せっていしりょうしゅう</sup>の厚さ<sup>ずかん</sup>) を買<sup>あつ</sup>ってしまっただんですが、黒澤明<sup>くろさわあきら</sup>ばりの  
制作陣<sup>せいさくじん</sup>のこだわ<sup>しよくはつ</sup>りように触発<sup>ぶふん</sup>された部分<sup>はや</sup>もあつたとかなかったとか。早くブルーレイも届<sup>とど</sup>か  
ないかなー。  
(びーどろ)

・膝<sup>ひざ</sup>の手術<sup>しゅじゅつ</sup>後<sup>ご</sup>、車椅子<sup>くるまいす</sup>生活<sup>せいかつ</sup> 3 週間<sup>しゅうかん</sup>。なってみないと分からない不便<sup>ふべん</sup>さに四苦八苦<sup>しくはっく</sup>しつつ、  
人間<sup>にんげん</sup>なんにでも慣<sup>な</sup>れるものだと思<sup>おも</sup>感<sup>かん</sup>。回復<sup>かいふく</sup>途中でインフルエンザ<sup>かいふく</sup>になってしまい、数日間<sup>すうじつかん</sup>  
絶食<sup>ぜっしょく</sup>状態<sup>じょうたい</sup>に。みんなは、神様<sup>かみさま</sup>がくれたお休<sup>やす</sup>みだと思<sup>おも</sup>ってゆっくりしてき～と言<sup>い</sup>ってくれたけ  
ど、えらくしんどいお休<sup>やす</sup>みになってます。ご迷惑<sup>めいわく</sup>をおかけしている皆様<sup>みなさま</sup>方には、この場<sup>ば</sup>を借<sup>か</sup>  
りて感謝<sup>かんしゃ</sup>申し上げます。  
(職員<sup>しょくいん</sup>○)

・箕面<sup>みの</sup>の冬初体験<sup>ふゆはつたいけん</sup>の私<sup>わたし</sup>。体感温度<sup>たいかんおんど</sup>や除雪<sup>じょせつ</sup>等々<sup>など</sup>、やはり箕面<sup>みの</sup>は大阪府下<sup>おおさかふか</sup>でも別格<sup>べっかく</sup>だと身<sup>み</sup>をもっ  
て実感<sup>じっかん</sup>している今日<sup>きょう</sup>この頃<sup>ごろ</sup>です。夏<sup>なつ</sup>の涼しさ<sup>すず</sup>はまだしも、冬<sup>ふゆ</sup>の更<sup>さら</sup>なる寒<sup>さむ</sup>さは厳<sup>きび</sup>しいですね。  
仕事以外<sup>しごと以外</sup>に、天候面<sup>てんこうめん</sup>でも早<sup>はや</sup>く箕面基準<sup>みのおきじゆん</sup>に適応<sup>てきおう</sup>せねば。皆様<sup>みなさま</sup>も、お体<sup>からだ</sup>お大事<sup>だいじ</sup>に！  
(職員<sup>しょくいん</sup>F)





# とうほうじん おうえん ねが かいじんほしゅう 当法人の応援をお願いします！【会員募集】

とうほうじん みのおししょうがいしゃ せいかつ ろうどうすいしんきょうぎかい りやく すいしんきょう しょうがいしゃしめん けんり じりつせいかつ そくしん  
当法人「箕面市障害者の生活と労働推進協議会」(略して推進協)は「障害者市民の権利および自立生活の促進」  
を理念に掲げ、活動しています。当法人を応援して下さる会員を募集しています！  
げんざい とうほうじん おも か き かつどう おこな  
現在、当法人では主に下記の活動を行っています。



## ヘルパー派遣事業

ちいき じりつせいかつ いとな しょうがい かたがた む はけん おこな  
地域で自立生活を営む障害のある方々に向けたヘルパー派遣を行っています。  
ます。「居宅介護」や「重度訪問介護」などの在宅支援、障害の特性にあ  
わせた「同行援護」「移動支援」などのガイド支援を行っています。



## グループホーム事業

しょうがいしゃしめん じりつせいかつ ひと しな い うんえい  
障害者市民の自立生活の一つとしてグループホームを市内で運営し、  
地域生活を支援しています。入居者の自主性を大切に、その人の個性  
をよく見てできることは自分でしてもらい、できないことは少しずつで  
きるように世話人が支援をしています。



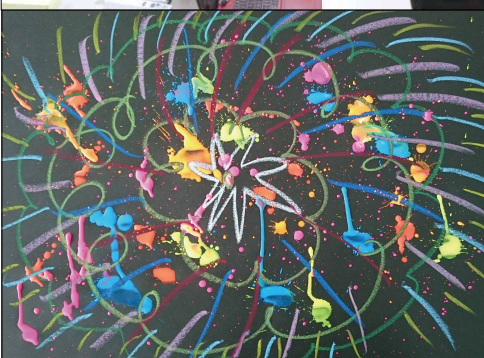
## 地域交流センター事業

ちいきこうりゅう じきょう  
放課後、長期休暇中の活動保障として障害がある子どもや地域周辺の子  
どもたち、および市民が交流する場「さんかくひろば」を運営しています。  
また、保護者等に対する相談も行っています。



## 相談支援事業

しょうがいしゃしめん じりつせいかつ えんじょ じょうほうていきょう もくてき  
障害者市民の自立生活への援助・アドバイス・情報提供を目的として、  
きめ細かい相談業務を行います。また、より多くの市民と共に将来の  
施策のあり方について検討を行います。



## その他の幅広い活動

とうほうじんどくじ じきょう いどうこんなんしゃ しえん おこな そうげい  
当法人独自の事業として移動困難者の支援を行う送迎サービス、  
とうこうほうし かんこう ようせい けんしゅう  
当広報誌『ファーストラン!』の刊行、ヘルパー養成の研修やアートサー  
クルの運営なども行っています。



今後とも障害のある方々にとって暮らしやすい社会づくりにむけた活動を継続していきます。より一層のご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。つきましては、一人でも多くの皆さまに、当法人理念および活動方針の賛同者であり応援者でもある「会員」になっていただき、当法人の活動を応援していただければと願っています。



## ■ご入会について■

入会希望の方はご一報ください。入会申込書を送付いたします。会員の種別は下記の 3 種類となっています。

|             |     |       |          |
|-------------|-----|-------|----------|
| だんたいかいじん    | かいひ | ひとくち  | えん       |
| 団体会員        | 会費  | : 1 口 | 10,000 円 |
| こじんせいかいじん   | かいひ | ひとくち  | えん       |
| 個人正会員       | 会費  | : 1 口 | 3,000 円  |
| こじんさんじょかいじん | かいひ | ひとくち  | えん       |
| 個人賛助会員      | 会費  | : 1 口 | 1,000 円  |

※団体会員・個人正会員は年に 1 回開催される総会に参加でき議決権があります。個人賛助会員に議決権はありません。

また、団体会員と個人正会員の議決権は 1 つで、口数には比例しません。  
(口数が増えても議決権は増えません)。

当法人公式サイトからお申し込みいただけます！下記のページに御アクセスいただき、画面の案内にそって必要事項を入力のうえ、お申し込みください。

<http://www.suisinkyo.com/members>

## ■お問い合わせ先■

072 - 723 - 3342 (会員担当：木下)

みなさん、推進協の応援団、会員になってください！お願いします！

# とうほうじん 当法人について

とうほうじん みのおしな いさざま かつどう おこな  
当法人は箕面市内で様々な活動を行っています。

ご依頼・ご相談は電話・FAX・Email・公式サイトよりお問い合わせのうえ、各事務所へご来所ください。

## ●法人本部（第 1 事務所）●

NPO法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

〒562-0001 大阪府箕面市箕面 4 丁目 8 番 30 号

営業時間：月曜から土曜 午前 10 時から午後 6 時

TEL：(072)723-3342 FAX：(072)723-6506

Email：JDW07270@nifty.com

Website：http://www.suisinkyo.com/

お花屋さんの奥に入ったところにあります。

居宅・重度訪問・移動支援・同行援護等のヘルパー派遣事業や  
グループホーム事業・通信発行事業をおもに実施。

箕面郵便局

箕面警察署



●箕面団地



●ささゆり園



●ブックオフ

箕面市役所

●ライフ

●コープ



至茨木

## ●法人支部（第 2 事務所）●

地域交流センターさんかくひろば

〒562-0004 大阪府箕面市牧落 3 丁目 2 番 15 号

営業時間：月曜から土曜 午前 10 時から午後 6 時

TEL：(072)734-6833

FAX：(072)720-6835 Email：mintlife@big.or.jp

Blog：http://www.suisinkyo.com/sankakublog

地域交流センター事業・放課後等デイサービスを実施。

## ●法人支部（第 3 事務所）●

相談支援事業所ライフタイムミント

〒562-0004 箕面市牧落 3 丁目 2-26

グリーンみのお A 棟 101

営業時間：月曜から土曜 午前 10 時から午後 6 時

TEL：(072)720-6806 FAX：(072)720-6808

Email：mintlife@big.or.jp

相談支援事業・送迎サービス事業を実施。

編集／特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

〒562-0001 大阪府箕面市箕面 4 丁目 8 番 30 号 電話：072-723-3342 FAX：072-723-6506

Email：JDW07270@nifty.com 郵便振替：00990-4-116066 公式ウェブサイト：http://www.suisinkyo.com

発行人／関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山 2-2 とうこう 東興ビル 4 階